

【資料】令和4年度 神戸市立博物館事業自己点検評価

神戸市立博物館は下記の4項目をその「使命」として位置づけています。

- (1) 神戸を中心とする考古、歴史資料と、東西文化の交流に関する南蛮美術、古地図資料などの調査・研究・収集を通じて、多様な神戸文化の特徴と文化交流の態様を明らかにします。その成果を市民・利用者と共有するとともに、これを次世代に継承し、地域の発展に役立つ「知の拠点」となります。
- (2) 市民・利用者が、優れた国内外の文化・芸術にふれあう機会を積極的に「提供する」博物館として、また、神戸の文化にこれまでにない魅力をつけ加えるために新たな調査・研究を「提案する」博物館、その成果を「発信する」博物館としての役割を果たします。
- (3) 博物館を利用するすべての人々が、知りたいこと、学びたいことに積極的に対応し、多くの利用者が、集い、楽しみ、憩うことができ、また、神戸を愛し、誇りとする拠りどころを得ることができる博物館としての役割を果たします。
- (4) 阪神淡路大震災の教訓を生かし、文化財を災害から守る重要性、コミュニティや市民の自発的な活動の大切さ、都市復興のなかで文化の果たす役割など、震災とその復興のなかで得た知見を全国に、世界に発信します。

上記の「使命」の実現のため、神戸市立博物館は下記の4つの「博物館使命の4大要素」を定め、これらが包含する事業に対する自己点検評価を行っています。

1. 歴史と文化の継承と研究
2. 歴史と文化への窓口
3. 人々とともに歩む
4. やさしさと安心の確保

令和4年度の神戸市立博物館事業自己点検評価の「総評」は下記のとおりです。

【総評】

「博物館使命の4大要素」のうち「2.歴史と文化への窓口」はA評価、その他はB評価とした。

「1.歴史と文化の継承と研究」については、概ね所定の役割を果たすことができたが、資料保存について昨年度課題とした空調環境の不安定な状況について2階コレクション展示室では改善が見られたが、1階神戸の歴史展示室では不安定な状況が継続しており、引き続き必要な対応を検討・実施する必要がある。

「2.歴史と文化への窓口」については、大型海外展である大英博物館ミイラ展、スコットランド国立美術館展、開館40周年記念のよみがえる川崎美術館展及びインド近代絵画の精華展を安全に遅滞なく開催できた。その中で大英博物館ミイラ展・川崎美術館展・インド近代絵画の精華展のアンケートでは当初想定以上の満足度を獲得することができた。また、学芸員の研究成果を反映させた自主企画展である川崎美術館展は入場目標も上回り、川崎コレクション及び川崎美術館の全容を明らかにした展覧会として高く評価された。

広報では令和3年度に開設したInstagramでフォロワーが大幅に増加し、既存のFacebook・Twitterとともに継続的な投稿に努めた。今後とも博物館の認知度向上・入館者増に向けHP・SNS・紙媒体など様々なツールの効果的な活用による情報発信に努める必要がある。

「3.人々とともに歩む」については、連携授業及び学校来館では、コロナ禍以前と変わらない人数に戻ってきており、充実した事業を展開できた。その他の普及事業・学習支援交流員の活動では、講座の開催数や一部定員に制限を設けるなど一定活動を縮小せざるを得ない場面もあったが、令和3年度まで開催できなかった「博物館をたのしむ」や交流員による館内でのワークショップなど様々なイベントを開催することができた。

「4.やさしさと安心の確保」については、建物や設備の老朽化が進んでいる中、適宜、修繕・改修工事を進め来館者サービスの向上や適切な館内環境の維持・改善を図る必要がある。予算確保に努めた結果、令和5年度に外壁改修・給水管更新・熱源更新・照明LED化の大規模工事が実施される予定となった。

博物館法の改正や神戸空港の国際化など博物館を取り巻く状況も変化してきている。その中で、今回の自己評価で明らかになった様々な課題に適切に対応していくとともに、様々な社会状況の変化も踏まえながら、博物館の使命を果たしていけるよう、今後とも職員一丸となって取り組んでいく。

1. 歴史と文化の継承と研究

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 学芸分野における博物館活動を担うための根幹となっているのが本項目である。資料保存、調査研究などは地道な仕事でもあるが、継続することが肝要でもある。ただし、この点に照らせば、美術の目録が発行できなかったのは残念であった。学芸員一人ひとりが、肝に命じて、仕事に携わって行くことが望まれる。

資料の受け入れについては、神戸港に関する多くの絵はがきやリーフレットからなる中村コレクションの受け入れが出来たことは、その成果の一つとしてよいだろう。展示にとどまることなく、利活用の方向性も探って欲しい。また、受け入れ予定の資料については、計画性を持って従事して欲しい。

1-1-01 資料受入

評価 A 優れている

評価の詳細 資料の購入では、限られた要件のなかで、各分野で適切な評価により、活用が見込める資料を効果的に充足させることができた。引き続き、購入資料の探求の継続が望まれる。資料の寄贈に関しては、特に「中村善則氏収集資料」については、受入から展示へと計画的かつ円滑に進捗できたことが評価できる。

1-1-01-01 資料購入・寄贈・寄託・保管転換

自己評価 A 優れている

P課題と目標

【購入】・【寄贈】・【寄託】それぞれにおいて、博物館の収集方針や活用計画に沿った実績を目指す。

【3年度実績】

- ・購入 13件100点
- ・寄贈 14件121点

D実施内容

【購入】 6件6点

[考古・歴史]4件4点

一之谷須磨名所記(1件1点)／一ノ谷合戦絵巻(1件1点)／兵庫津北濱鍛冶屋町宗旨巻(1件1点)／有馬温泉名所図会(1件1点)

[美術]1件1点

樹下双獅子図(1件1点)

[古地図]1件1点

摂津国八部郡村々庵絵図(1件1点)

【寄贈】 5件892点

[考古・歴史]4件891点

中村善則氏収集資料(1件669点)／摂津国有馬郡田尾寺村田中家文書(1件30点)／摂津国明石郡北古新田村中井家文書(1件191点)／遣唐使船模型(1件1点)

[古地図]1件1点

伊万里焼方形日本図皿(1件1点)

【寄託】 1寄託者10件10点

[美術]1寄託者10件10点

上方眼鏡絵版木及び覗き眼鏡(10件10点)

自己評価の詳細 プラス面

【購入】

各分野で展覧会、並びに調査研究で活用が見込まれる資料・作品を館藏品に加えることができた。

【寄贈・寄託】

神戸の歴史・古地図・美術に関する館藏品・寄託品を拡充することができた。

「中村善則氏収集資料」については、評価委員会の実施・篤志者表彰など受入にかかる事務が適切に行われ、受入後の速やかな公開(コレクション展示室「国際港都神戸の印象―新規資料受贈記念展―」、令和5年4月1日(土)～5月7日(日))が実現できた。

自己評価の詳細 マイナス面

1-1-02 資料保存

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 収蔵庫の生物環境に関しては、一部の収蔵区域で顕著な虫類の発生があった。収蔵資料に直接被害を及ぼすものではなかったものの、建築構造に由来する新たな問題が認識され、今後の対処が急がれる。コレクション展示室の空調問題に解決の目処がたったのは前進であったが、神戸の歴史展示では不安定な部分が残されているので、引き続き日々の状況監視と対応が必要である。

1-1-02-01 収蔵庫・展示室の保存環境	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<p>P課題と目標</p> <p>定例の温湿度モニタリング・夏季生物環境調査、収蔵庫清掃の実施。IPMについて、博物館で働く人全員に、館内で虫やカビの発生などの異常を発見した際の記録と、より厳格なごみの廃棄方法の周知と依頼を行い、情報共有と環境保全をはかる。温湿度管理は、「収蔵区域」における±5%・2℃以内の変動に抑える。</p> <p>中央監視室、管理課と情報共有をはかり、設備機器の改修など中・長期的計画を立てて、予算要求を行えるようにそなえる。</p> <p>環境変化に即応した対策の実施。適切な緊急時対応の実施。</p> <p>温湿度のモニタリング情報の共有化の実施。</p> <p>館内に虫菌類が生息しにくい環境づくりを行う。</p>	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none">・年度初めに予定した定例の業務は実施できた。・館内の関係者全員にゴミの廃棄・処理方法や害虫発見記録を共有することで、博物館環境の改善に努めた。・空気の取り入れ方法を見直すことで、コレクション展示室の温湿度を本来の設定通りに推移させることができた。・温湿度の変化や虫の発生に対し、加湿器・除湿器の導入や清掃などの対応を都度取り、状況を改善することができた。・常設展示の温湿度や展示環境全般に関する点検・記録について、新しい作業方式を確立し運用を始めた。	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none">・資料への被害は確認されなかったが、夏から秋にかけて、収蔵区域で害虫が多く出現した。特に特別展示室2奥倉庫など冬期の結露が懸念される箇所が発見された・ゴミの廃棄・処理方法を正しく行えていない場合があった。・神戸の歴史展示室は、空調稼働有無により、温湿度の変化が顕著となった。24時間の空調稼働の検討、温湿度が不安定な時期の展示資料の適切な選定などの対応が引き続き必要。

D実施内容

【定例の温湿度モニタリングと虫類確認】

毎週水曜日に実施。「収蔵区域」において、±5%・2℃以内の変動に抑えた温度管理を行っていることを確認した。コレクション展示室の空調管理を改善した。モニタリング作業の見直しを行い(ロガー番号の再設定、回覧方法の変更)、より迅速に結果の共有を行うことができるようになった。

毎月4階収蔵庫のトラップにおいて、虫類の確認を行った。夏から秋にかけて、収蔵区域内で害虫(チャタテムシ)が多く発生、対策として収蔵庫に隣接する区域の除菌作業を行い、以降の発生を抑止することができた。

【4F収蔵庫の定例清掃】

毎月第3火曜日に収蔵庫内のトラップを確認

毎月第3水曜日に収蔵庫清掃を実施し、トラップ内に害虫が確認された箇所を重点的に清掃した。

【燻蒸作業】

6月27日～7月1日 於:当館地階考古学習室 特別展「よみがえる川崎美術館」の出品資料及び新規購入・受贈(予定含む)資料

10月4日～8日 於:当館地階考古学習室 特別展「よみがえる川崎美術館」の出品資料

3月6日～10日 於:当館3階特別展示室1 新規購入・受贈資料・受贈(予定含む)資料

【生物環境調査】(1回目:令和4年6月23日/2回目:令和4年10月24日)

館内各所でフェロモントラップ捕虫調査(71ヶ所)、空中浮遊菌の採集・培養検査(68ヶ所)、室内塵内昆虫調査(27ヶ所)

【館内殺虫業務】

12月23日 各階トイレ、カフェ水回りを含む館内49ヶ所 有機リン系殺虫剤を用いた害虫防除作業。

【その他】

1月24日 博物館外周の鳩糞清掃及び防鳩針具取付作業/3月17日 収蔵庫周辺の壁面拭き取り清掃

3月24日 温湿度変化を抑えるための神戸の歴史展示室入口へのパネル設置/3月25日 2階特別展示室2奥倉庫の窓拭き取り清掃/水回りを中心とした箇所への誘引型殺虫剤の設置/害虫発見記録の作成(日時、発見場所、対処等を記録。館内殺虫業務等の仕様に反映)/毎日朝夕の常設展示室の状況点検・記録の新方式による効率化と徹底(令和5年1月より)

1-1-03 資料補修

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 数年度の施工を要する資料の補修には対応しきれていないことが依然、課題として残されている。また、コロナ後ということもあり対応できる補修業者も需要が増しており、当館からの発注に対応しきれないケースも今後想定される。

1-1-03-01 資料補修		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 ・補修に要する十分な期間を設けるために、補修資料の選定を年度当初に決定する。 ・展示計画、総合資料調査を行う中で、担当者が資料の状態を的確に把握し、資料の状態に応じて速やかに修理業務を行う。	D実施内容 【補修実績】 従高野山奥院迄慈尊院路径之図(新2020-004) 逸然性融筆「達磨図」(新南1963-001)ほか軸首7点復旧 ※令和元年度台湾・国立故宫博物院南院への貸出時、ワシントン条約対策として一時交換した軸首の復旧 カフェ特別室家具クリーニング(新1982-645) 展示計画における館蔵品の調査や資料整理及び収蔵庫の保存状況を定期的に確認する中で、当初計画にあがっていない資料保存箱やブックマットの作成、展示室の模型資料に付随するプロジェクターの補修等を追加で実施した。 【補修資料の選定】 長期間施工を必要とする候補資料のうち、下記の資料を来年度補修資料とすることを決定した。 円山応挙 京洛・中国風景図巻(13章-軸001) 大輿地球儀(秋岡-01-056)	自己評価の詳細 プラス面 ・本年度に対象とした資料の補修作業は問題なく作業を終えることができた。 ・工期を十分に確保するため、長期間(ただし単年度)の施工を必要とする資料・作品の補修について、今年度中に来年度の補修資料を決めることができた。	自己評価の詳細 マイナス面 ・補修が必要な資料について、高額の費用・複数年工期を必要とするものについて、実施の見通しが依然として立っていない。 ・来年度補修資料の修理先の選定には至らなかった。 ・補修が必要な状態の資料に対して、計画的な予算執行ができなかった。

1-1-04 調査研究

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 事務作業が増加する中でも、調査研究活動は活発に行われた。ただし、大型の自主企画特別展へ注力したこともあり、それ以外の研究成果の発信が低調に終わった感がある。館蔵品目録・研究紀要の発行については、社会的に文書の電子化と公開が進行する中で、大きな転換点を迎えてつつある。デジタル・アーカイブの充実と並行して、情報公開の多角化も次年度以降の懸案になると、意識を改めるべきである。

1-1-04-01 調査研究計画(自主企画展計画含む)		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 各学芸員が次年度以降の展覧会を見据えて、計画的に調査を実施する。 次年度以降の展覧会に向けて関係諸機関と調整を進める。 次年度以降の企画展の募集を行う。 【昨年度実績】 展覧会に関連する調査:40件	D実施内容 【調査実績】 川崎展(令和4年開催)に係る資料調査:17件 文化財展Ⅲ(令和5年開催予定)に係る資料調査:10件 担当資料に係る調査:40件 市内文化財に係る調査:4件 その他(個人研究):2件 【次年度以降の展覧会】 9月に来年度以降に開催予定の展覧会にかかる負担金、調査費の予算要求を行った。 来年度開催予定の特別展「神戸の文化財Ⅲ ～今伝えたい、私たちの宝・街・心・技～」、「幕末明治の手彩色写真にみる「JAPAN」(仮称)」は、2月に文化庁に対して補助金を申請(令和5年4月上旬に採択通知)。 「古地図資料受贈記念展(仮称)」については資料整理を行い、基本情報整備を実施中。	自己評価の詳細 プラス面 ・開催予定の展覧会にかかる調査を実施できた。 ・館蔵品関連の調査を実施し、一部の項目については成果発表につなげることができたものもあった。 ・来年度開催予定の展覧会について、当初計画通りの予算要求が実施できた。合わせて、自主企画特別展については、文化庁補助事業に申請し、財源補填に向けて努力した。 ・自主企画展を含む令和9年までの展覧会スケジュール(案)を作成した。	自己評価の詳細 マイナス面 「六甲展(仮称)」について、計画的な調査計画の立案、調査実施が行われなかった。

1-1-04-02 館外資料調査		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 【昨年度実績】22件 ・博物館の担当分野に関わる調査:22件 考古歴史資料10件 古地図資料11件 美術資料1件 ・派遣依頼による調査:6件 ・個人のテーマ研究に関わる調査:10件	D実施内容 【調査実績】 ・博物館の担当分野に関わる調査:44件 考古歴史資料20件 古地図資料12件 美術資料12件 ・派遣依頼による調査:11件 ・個人のテーマ研究に関わる調査:24件	自己評価の詳細 プラス面 ・全分野において、各学芸員の担当分野に関する資料調査が実施できた。特に、開催予定の展覧会出品予定作品にかかる調査を実施し、借用についても調整することができた。 ・調査内容の一部を発表、執筆などで報告することもできた。	自己評価の詳細 マイナス面

1-1-04-03 研究成果発信(執筆・講演・発表等)		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 ・博物館の事業及び個人の研究テーマに係る研究論文(査読論文)、執筆(査読論文以外の論文、図録解説以上の解説及び報告等)、普及系記事(新聞記事など)、学会発表、講演(1h以上)などにより、研究成果を積極的に発信する。 【昨年度実績】 執筆41件、講演21件、研究発表5件、その他7件	D実施内容 【執筆】 16件 当館の定期刊行物(博物館だより、研究紀要、目録):4件 展覧会図録(川崎美術館展):4件 学術雑誌・学会誌への投稿:8件 【講演】 18件 他館・生涯学習施設等での講演(文化センター、神戸婦人大学、いきいき勤労財団など):14件 普及事業にかかる講演(ミュージアム講座、学芸員と神戸を巡る):4件 【研究発表】 2件 学会発表:2件 【その他】 8件 特別展にかかる紙面記事の執筆(川崎美術館展など):6件 神戸の歴史に関する紙面記事への執筆(兵庫歴史探訪):2件	自己評価の詳細 プラス面 【執筆】 今年度は、大型の自主企画展があり、図録のコラムや解説を担当者が複数執筆することができた。また、各分野が個人の研究テーマに関わる執筆を実施できた。 【講演】 特別展・企画展の記念講演会に加えて、ミュージアム講座や市内各所の生涯学習施設での講座を行った。特定の分野にかたよらず、神戸の歴史や館蔵品について幅広い内容の講座を実施できた。特にミュージアム講座は、新規採用で新しく博物館の学芸員になった職員の経験や紹介の機会となった。 【その他】 特別展を中心に、共催新聞社の紙面に記事を掲載することで、幅広い読者に、自主企画展や館蔵品の魅力を発信することができた。	自己評価の詳細 マイナス面 全体の件数が大きく減少となった。特に論考などの執筆、研究発表の減少が目立った。 ・令和4年度は館蔵品目録の美術の部の刊行が見合わせられた。 ・上記の原因として、自主企画特別展へ労力が振られたことも考えられる。大型自主企画展など、学芸員の大幅な業務増大を織り込んだ計画が必要だった。

1-1-04-04 館蔵品目録・研究紀要・年報		自己評価	C やや劣る
P課題と目標 『研究紀要』『館蔵品目録』 令和5年3月末刊行(予定) 『年報(令和3年度)』 令和4年9月公開(予定) ※当館HPにてPDF版 以上をそれぞれの期限までに刊行する。	D実施内容 【年報】 制作が遅れていた、No.36(平成31年度／令和元年度)及びNo.37(令和2年度)について、令和5年3月上旬に当館HPで公開した。 【紀要・目録】 3月31日:納品、発行。 ※内容は、下記のとおり 【紀要の内容】 塚原晃「放蕩息子の散在―長崎版画〈阿蘭陀人康楽之図〉と西洋製銅版画との関連を中心に」 三好俊「[研究ノート]神戸市立博物館蔵「源平合戦図屏風 一の谷・屋島合戦図」の描写について ―『平家物語』関連作品との対照を通じて―」 水嶋彩乃「[資料紹介]鷹見保具『雨粟記』」 【目録の内容】 「考古・歴史の部」38 写真・絵葉書X	自己評価の詳細 プラス面 【年報】 ・No.36及び37の製作において、展覧会やコレクション展示の出品目録を入力することに代えて、ホームページの該当ページへリンクを貼ることで、執筆者の負担軽減、閲覧者の利便性の向上に繋がった。 【紀要目録共通】 ・前年度と同様、紀要と目録を分けて、見積り合わせ、発注を進めたことで、2社で分担でき、円滑に制作を進めることができた。 ・当館の使命にそった内容の印刷物を制作することができた。 【紀要】 ・館蔵品及び神戸の歴史・文化に関する調査研究の成果を3本の論文として刊行できた。 【目録】 ・昨年度好評を得た、A4判での制作を継続し、見やすい大きさの写真を多く掲載することができた。	自己評価の詳細 マイナス面 【年報】 ・例年の積み残しであったNo.36及び37が公開できた一方で、本来今年度公開するはずのNo.38(令和3年度)の制作ができなかった。 【紀要】 ・例年と比べ、執筆エントリーが少なかった。 【目録】 ・刊行を続けてきた「美術の部」について、今年度は刊行見送りとなった。

1-1-04-05 館蔵品データベース作成		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<p>P課題と目標</p> <p>・未整理資料については、中長期的な計画を立てて整理作業を行い、整理の完了したものから、館蔵品データベースへの登録を進める。</p> <p>・館蔵品データベースを基にした公開資料(デジタル・アーカイブ)を充実させる。現在1,272件の公開資料があり、予定数の1,451件公開に向けて、写真撮影等の準備を行い、資料・作品の公開活用を行う。※昨年度のデジタル・アーカイブアクセス数 510,420件</p> <p>・情報コーナーの「描かれた神戸 写された神戸」(景観資料検索機能)内で公開する景観資料を増やす。</p>	<p>D実施内容</p> <p>【未整理資料の整理と公開・活用】</p> <p>[考古]</p> <p>武藤コレクションの調査記録及び写真類の整理作業を実施し、館蔵品データベースへの登録(104件追加)と更新を進めて、公開活用への準備を行った。</p> <p>[歴史]</p> <p>近世の講看板資料108点などを館蔵品データベースに反映させ、公開活用に向けた準備を行った。また、神戸の近代景観写真212件について、情報コーナーの「描かれた神戸 写された神戸」での追加公開の準備を行った。</p> <p>[美術・工芸]</p> <p>4階収蔵庫内に散在していた未整理資料の整理を行い、資料の検索性を向上させた。『ヨンストン動物図譜』『解体新書』などの洋書・和書については、研究目的の使用頻度が高い図版頁の全撮影を行い、デジタル・アーカイブでの公開への準備を始めた。近代の版画35件について、情報コーナーの「描かれた神戸 写された神戸」での追加公開の準備を行った。また、「玻璃文庫」の受入・活用に向けて資料整理を行い、来年度も継続して作業を進める予定である。</p> <p>[古地図]</p> <p>大規模な新規受贈資料の受入・活用にむけて、資料整理と目録作成を継続中。本格的な館蔵品データベースへの登録と写真撮影は来年度以降。</p> <p>【館蔵資料・作品の公開活用】</p> <p>館蔵品データベースを基にした公開資料化を実施し、デジタル・アーカイブとして新たに17件(429点の画像の追加・更新)を追加し、1,289件の館蔵美術作品・資料をホームページ上と情報コーナーで公開を行った。また情報コーナーの「描かれた神戸 写された神戸」では、幕末～昭和期の212件の版画・絵葉書の画像・情報を追加公開した。デジタル・アーカイブ(文化遺産オンラインでの当館所蔵品情報)へのアクセス数 351,027件</p>	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <p>・館蔵品データベースの登録と更新を進めることができた。</p> <p>・未整理資料の整理作業、館蔵品データベースへの登録の成果を展示に反映させることができた。館蔵品データベースを基に公開資料化を進め、ホームページのコレクションページや、デジタル・アーカイブ、「描かれた神戸 写された神戸」の内容を充実させることができた。</p>	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <p>・すべての未整理資料の解消に至っていない。</p> <p>・館蔵品データベースを基にした公開資料化は、予定の1451件まで達しておらず、すべての写真撮影も完了していない。引き続き、公開に向けた計画的な整理作業の実施が必要である。</p> <p>・デジタル・アーカイブへのアクセス数の減少の原因については未詳。</p>

2. 歴史と文化への窓口

評価 A 優れている

評価の詳細 コロナ禍でありながら様々な対処策を講じ、大規模な海外展として「大英博物館ミイラ展」「スコットランド国立美術館展」を開催し、多くの来館者が観覧されたことの持つ意味は大きいと考える。また、開館40周年を記念して取り組んだ「よみがえる川崎美術館」展では、神戸の地にあった美術館の歴史や資料を紹介できたのは意義深いことであった。前後者を通じて資料の持っている”力”を再認識できたと考える。

展示の補助装置ではあるが、音声ガイドの充実や、インバウンドなどに備えての多言語化、HPの充実が課題となろう。

課題はあるが、この項目については、あえてAの評価を付しておきたい。

2-2-01 常設展

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 懸案であるコレクション展示の、総入館者数に対する入場率だが、令和4年度はかなりの向上が見られた。特別展「よみがえる川崎美術館」など、コレクション展示の内容と親和性のある展覧会が開催されたことと相関性があると見られる。令和5年度は状況が異なるため、誘導の工夫についてもすでに議論がなされており、その実施効果について注視すべきである。神戸の歴史展示室内には映像機器が多く、突然作動しないことがあったことから、保守について検討する必要がある。展示替えを行い、音声ガイドの拡充を図れた。地域文化財展示室については、神戸にちなむ展示を年間通じて行うことができた。体験学習室については、新型コロナウイルス感染症対策をした上で開室しており、年度の後半以降からは、学習支援交流員のワークショップが再開されるなど利用機会を増やすことができた。

2-2-01-01 神戸の歴史展示室	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<p>P課題と目標</p> <ul style="list-style-type: none">・神戸の海・港を介して育まれた交流や人々の営みを中心とした、神戸の歴史を伝えることのできる展示を行う。・大人から子供まで楽しむことのできるわかりやすい展示を行う。・地域文化財展示室においては、中長期的な展示計画を立て、多様なテーマで神戸市と周辺地域についての展示を行う。・資料保存の観点から、展示替えを行う。	<p>D実施内容</p> <p>【総入館者数】264,728人</p> <p>【展示内容】</p> <p>[原始]</p> <p>「海の回廊～東アジアとの交流～」 出土資料、五色塚古墳模型等を用い、太古の神戸の人々の足跡を紹介。五色塚古墳出土 鱒付円筒埴輪、弥生土器など:30件</p> <p>展示替え:6月3日 伯母野山遺跡出土資料 板状鉄斧 → 伯母野山遺跡出土資料 板状鉄斧(資料群内での入れ替え)</p> <p>[古代中世]</p> <p>「大輪田泊から兵庫津へ」 文献史料、地域に伝わる有形・無形資料等を通して、古代・中世の実像を紹介。海東諸国記、兵庫北関入船納帳(複製)など:7件</p> <p>展示替え:8月22日 摂州一の谷鴨越ヨリ義経平家ヲ攻ル図 → 室町幕府御教書(複製)、12月16日 摂津名所図会 → 海東諸国記</p> <p>[近世]「兵庫津の繁栄」 文献史料や絵図のほか、兵庫津模型を交え、港町として繁栄した江戸時代の兵庫の姿に迫る。羽柴秀吉領知判物(極井家文書)、天保山魯船図、イラストレイテッド・ロンドンニュースなど1:5~18件</p> <p>展示替え:6月24日 三好長慶書下(極井家文書) → 羽柴秀吉判物(同)、7月12日 摂津名所図会 → 茶事見聞抄、毎月家持・借家 人別改判形帳 → 見西五十回忌記録、12月16日 太平記英勇伝 荒儀摂津守村重 → 太平記英勇伝 松永大膳久英</p> <p>[近現代]「開港 ～世界との交わり」 文献史料、パンフレット、絵葉書などの資料を展示し、近現代の神戸の姿を活写。神戸外国人居留地計画図、摂州神戸西洋館賑之図、国産第一号パーマネント機など:40件程度</p> <p>7月12日 摂州神戸西洋人馬騒之図 → 摂州神戸西洋館賑之図、神戸名所之内 蒸気車相生橋之景 → 雑居地海岸通の電灯(神戸名所写真のうち)、8月22日 菊水小学校学校日誌 → 住吉村戦災復興土地画整理資料、12月13日 神戸三菱造船所開業一周年記念誌 → 川崎造船所営業案内、豪商神兵 湊の魁 → “The Climax System for Cutting Gentleman’s Garments” など</p> <p>[地域文化財展示室]</p> <p>「新収蔵地域資料展」(3月29日～5月8日) 神戸海岸ヨリ兵庫和田ノ岬望む図など:7件、「神戸の村と古文書」(5月17日～7月8日) 摂州有馬郡上津下村文書など:2件、「近世有馬の地誌」(7月16日～8月21日) 有馬山紀行など:5件、「弥生時代の石器」(8月23日～9月25日) 製太型蛤刃石斧(伯母野山遺跡出土)など:16件、「きらきらしき御仏―神戸伝来の高麗美術」(10月15日～12月4日) 大吉祥陀羅尼経・仏説宝賢陀羅尼経(太山寺蔵)など:3件、「南北朝内乱期の神戸を辿る」(12月24日～2月12日) 兵庫合戦遠矢之図など:6件、「視えない力の召喚―神戸伝来の密教美術」(2月14日～3月21日) 入唐招来聖教目録など:2件</p> <p>【普及事業】</p> <p>コレクション展示室と分担し、ギャラリートークを開催した。(ギャラリートークについては「普及事業」シートを参照)</p> <p>【音声ガイド】</p> <p>昨年度より運用を始めた無料の音声ガイドを更新し、10件の資料について解説を開けるようにした。</p> <p>本年度利用者数:975人</p> <p>【令和5年度の展示計画】</p> <p>次年度の広報印刷物準備に伴い、12月に地域文化財展示室の展示計画をまとめた。</p>	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none">・限られた展示スペースを十分に活用しながら、適宜資料の展示替えを行っており、日頃からの館蔵資料研究の成果を発信できている。・展示室内の不安定な湿度状況に対応すべく、日々状況を観察して、加湿器・除湿器を運転しながら、改善を図った。また、特に湿度変化の激しい近世のコーナーについては、湿度変化の影響を受けにくい資料の展示に変更し、対応を続けている。・音声ガイドの紹介資料数を増やした。利用者数も特別展の来場者数に比例して増加している。 <p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none">・展示室内の湿度が安定せず、展示資料の幅が狭まっている。湿度変化の影響を受けにくい資料の積極的な収集や、複製の製作など、計画的に進めることが必要。

2-2-01-02 コレクション展示室			自己評価 A 優れている
<p>P課題と目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総入場者数のうち入場率20%以上 ・展示替え、ギャラリートーク等の積極的な広報 ・近年の学芸員の調査研究、資料収集を反映し、資料保存を考慮した展示の実施 ・次年度以降の展示中長期計画の策定 <p>昨年度実績【コレクション展示室総入場者数/総入館者数】8,268人/134,027人(6.2%)</p>	<p>D実施内容</p> <p>【コレクション展示室総入場者数/総入館者数】35,880人/264,728人(13.6%)</p> <p>【展示内容】※以下、カッコ内は展示資料件数</p> <p>[国宝 桜ヶ丘銅鐸・銅戈]</p> <p>国宝(銅鐸14点、銅戈7点)を通期展示。</p> <p>[ザビエル]</p> <p>3月29日(火)～5月8日(日)実物展示／関連キリシタン資料展示(13)</p> <p>※以上、カッコ内は展示資料件数</p> <p>[美術]</p> <p>3月29日(火)～5月8日(日) 隠元禅師と黄檗絵画(6)</p> <p>5月17日(火)～7月8日(金) 我が名は鶴亭リターンズ(16)</p> <p>7月16日(土)～8月21日(日) 異国へのまなざし(16)</p> <p>8月23日(火)～9月25日(日) 英国から歩く、明治日本のスケッチ巡り(12)</p> <p>10月15日(土)～12月4日(日) コレクターたちの片鱗(池長孟)(20)</p> <p>12月24日(土)～2月12日(日) UKIE 江戸を魅了した吸い込まれる空間(26)</p> <p>2月14日(火)～3月21日(火・祝) 洋画の「なぜ描く?／どう描く?」—魅せたい・身体(7)</p> <p>[古地図]</p> <p>3月29日(火)～5月8日(日) 地図を作る人II森幸安(8)</p> <p>7月16日(土)～8月21日(日) 江戸時代のルートマップ「道中図」(7)</p> <p>8月23日(火)～9月25日(日) 災害と地図(日)(9)</p> <p>10月15日(土)～12月4日(日) コレクターたちの片鱗(南波松太郎・秋岡武次郎)(5)</p> <p>12月24日(土)～2月12日(日) 地図帳をめくる(10)</p> <p>2月14日(火)～3月21日(火・祝) 古地図で見る近代神戸(火・祝)(10)</p> <p>[びいどろ]</p> <p>3月29日(火)～5月22日(日) ガラスの文具(12)</p> <p>5月24日(火)～7月8日(金) ガラスのかたち(11)</p> <p>7月16日(土)～8月28日(日) 型吹き of 素朴美(12)</p> <p>8月30日(火)～10月16日(日) 切子の文様(11)</p> <p>10月18日(火)～11月27日(日) 和ガラスの宝庫(11)</p> <p>11月29日(火)～2月12日(日) 投影するガラス(2)</p> <p>2月14日(火)～3月21日(火・祝) 身だしなみのガラス(43)</p> <p>[考古・歴史]</p> <p>3月29日(火)～5月8日(日) 紅塵荘残照—池長孟のまなざし(8)</p> <p>5月17日(火)～7月8日(金) 聖なる世界への憧憬—経箱の世界(3)</p> <p>7月16日(土)～8月21日(日) はにわの世界—館蔵品から—(5)</p> <p>8月23日(火)～9月25日(日) 中世文書の世界(8)</p> <p>10月15日(土)～12月4日(日) 武藤誠コレクション(8)</p> <p>12月24日(土)～2月12日(日) 鏡に描かれた生き物たち(21)</p> <p>2月14日(火)～3月21日(火・祝) 源氏の英雄コレクション(9)</p> <p>・ギャラリートークを6～7月、1～3月に計12回行った。</p> <p>・展示替えごとにポスターを作成し、コレクション展示室の観覧を促した。</p>	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度に比して大幅に入場者増となった。総入館者数に対する割合も倍増以上となった。 ・年間を通して概ね当初計画に基づいた展示を実現できた。 ・各展示室において、学芸員が館蔵品・寄託品の調査研究、収集の成果に基づき、さまざまなテーマを設定して展示を構成し、作品・資料の魅力を伝える場をつくることができた。 	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネルやキャプションのレギュレーションが統一されていない場面が散見された。
<p>2-2-01-03 情報コーナー</p> <p>P課題と目標</p> <p>展覧会・展示と確実に関連付けされた図書の配架。</p> <p>情報コンテンツの更新と拡充。</p>	<p>D実施内容</p> <p>【図書】情報コーナー、ミュージアムカフェにて配架を行った。</p> <p>受入図書:900冊(購入・寄贈等。雑誌は含まない)</p> <p>【情報コンテンツ】</p> <p>コレクション検索:前年度の1,272件から1,289件に公開件数を増加。すでに公開済みの資料7件について、写真を追加した。</p> <p>「描かれた神戸 写された神戸」(景観資料検索機能):幕末～昭和期の212件の版画・絵葉書の画像・情報を追加公開。</p>	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入図書の内容に応じて、情報コーナー、ミュージアムカフェに適切に配架できた。 ・コレクション検索、「描かれた神戸 写された神戸」を拡充できた。 	<p>自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)</p> <p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年画像のファイルサイズや数量、解像度は上がっている。容量や性能に限界のある情報コーナーのシステムでは、すでに動作速度の鈍化など問題も発生しつつある。HPでのデジタルアーカイブの公開も見据えながら、情報コーナーのコンテンツのあり方を検討する必要が生じている。

P課題と目標

- ・教育普及事業の場として「子供から大人までが楽しめる」ワークショップを定期的に行えるように学習支援交流員への協力依頼と調整、アドバイスをを行う。
- ・教材、資材、子供向け書籍の維持管理を行う。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を取った上で、開催可能な講座、ワークショップの開催を目指す。
- ・学習支援交流員の活動の場として、安全かつ有効的な再開を検討する。

D実施内容

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため制限つきで実施していたが、令和5年3月13日(火)より学習支援交流員の活動をコロナ禍前の状態に近づけるなど、制限を緩和した。

入口で入・退出時に手指消毒を行う、講座及びワークショップでは透明アクリル板を設置することで、新型コロナウイルス感染症対策を講じた。

子ども向け書籍の入れ替え・整理を行い、展示に関するものや新しく刊行されたものを配架した。教材などの整理整頓を実施した。

【実施したもの】
木製パズル、年表パズルシート、ハンズオン教材、図書閲覧／展覧会関連・教育普及に関連する講座・イベント等の開催／学習支援交流員による来館者向けワークショップの練習及び実施

【実施できなかったもの】
古代衣装体験、一部のハンズオン教材(消毒用アルコールに弱い樹脂製のもの)

【新規展示品】
3月28日(火)に新規寄贈品(遣唐使船)を展示

【体験学習室で実施した講座・ワークショップ】
ジュニアミュージアム講座:
4月23日(土)「ピラミッド型ハンコをつくってみよう！」 特別展「大英博物館ミイラ展 古代エジプト6つの物語」関連講座
9月11日(土)「きみも巨匠にチャレンジ！」 特別展「スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち」関連講座
博物館をたのしむ:
6月30日(木)「古地図からみる江戸時代の旅」参加者9名
夏休み土器づくり教室:
7月23日(土)、7月24日(日) 土器成形
8月11日(木)～8月18日(木) 展示コーナーを設置し、作品展示
学習支援交流員によるワークショップ(紙コップで銅鐸作り、紙芝居、浮世絵摺り、湿拓):
11月5日(土)、12月3日(土)、2月4日(土)、2月11日(土)、2月18日(土)、2月25日(土)、3月4日(土)

自己評価の詳細 プラス面

- ・新型コロナウイルス感染症対策を行った上で、講座での使用及び学習支援交流員の活動の場として活用することができた。
- 学習支援交流員のワークショップを実施し、延べ167人と多くの来館者が参加した。
- ・夏休み土器づくり教室では、土器の成形及び完成後の展示を実施することができた。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・11月5日(土)の再開までは、新型コロナウイルス感染拡大状況を考慮し、学習支援交流員によるワークショップの実施を制限せざるをえなかった。

2-2-02 特別展

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 いまだ新型コロナウイルス感染症が収束しない中ではあったが、「大英博物館ミイラ展」、「スコットランド国立美術館展」という大型海外展、学芸員の長年の研究成果を反映させた自主企画展「よみがえる川崎美術館展」と、上質の特別展3本を安全に遅滞なく開催できた点は高く評価できる。「スコットランド国立美術館展」、「よみがえる川崎美術館展」に関しては、展覧会収支も黒字となったことが評価される。学芸員の研究成果を反映させた自主企画展である川崎美術館展は、コロナ禍の時期でありながら目標入場者を上回り、川崎コレクション及び川崎美術館の全容を明らかにした展覧会として学術的にも高く評価された。加えて「大英博物館ミイラ展」、「よみがえる川崎美術館展」においては、アンケートの満足度も目標値を上回り、コロナ禍において展覧会を開催したことへの感謝の言葉も多く寄せられた。文化や芸術の発信基地としての博物館の役割を十分に果たすことができた結果と見えよう。

2-2-02-01 大英博物館ミイラ展 古代エジプト6つの物語	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<p>P課題と目標</p> <p>展覧会を通じて、世界的にも著名な大英博物館のミイラコレクションを幅広い世代に知ってもらう機会とする。</p> <p>新型コロナウイルス感染症蔓延以降、初めての大型海外展となる。感染状況を踏まえながら、来館者が安心して鑑賞できる環境づくりを実現する。</p> <p>・会期末と大型連休が重なり、混雑が想定される中で、安全、かつ安心して鑑賞できる運営を実施する。</p> <p>・予算書の数値(収支、入館者数、有料率)の達成</p> <p>【予算書想定】入館者数:165,000人(有料率90%、2,037人)</p> <p>・アンケートなどお客様の声を通して、改善点があれば適切に対処し、満足度の向上を図る。 目標満足度83以上</p>	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none">・リニューアルオープン、ならびに新型コロナウイルス感染症蔓延以降、初めてとなる大型海外展となったが、感染症対策を講じながら、大きな事故もなく閉幕を迎えることができた。・目標以上の満足度を得た。・感染症対策として導入したオンラインチケットは、来場者の内およそ6割の方が利用していた。予約方法への問い合わせがあったものの、感染症対策としてある程度の効果が得られたと考えられる。・子ども向けに実施した児童書キャラクターを用いた展示パネルやクイズなども好評を得た。館内アンケートでは回答者(727人)の内、約半数(311人)が20歳未満であった。他の特別展では少ない若年層の入館を促すことができた。・神戸・三宮の商業施設(EKIZO神戸三宮、神戸国際会館SOL、神戸マルイ、santica、ミント神戸)、飲食店(TOOTH×TOOTH)などと提携して相互割引を実施した。また周辺施設(書店、飲食店など)に割引券の配架を依頼し、入館者増を図った(利用者:一般7,704人、大学497人、計8,201人/利用率6%)。	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none">・予算規模に応じた来館者数に達しなかった。・事前予約制に関する問い合わせが多かった(特にキャンセル方法について)。よりわかりやすい利用案内、キャンセル方法を提示するなど、利用者目線にたった検討が必要であった。次回展以降の改善が望まれる。・記念講演会において、定員50人のところ300人以上の参加希望があり、落選者が多く発生した。落選者への対応についても、今後の改善が必要と思われる。・会期末に、展覧会図録の残部がゼロとなった。コロナ禍を踏まえて、当初予算書記載の部数よりも、製作部数を抑えていたことが要因であった。

2-2-02-02 スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち

P課題と目標

展覧会を通じて、スコットランド国立美術館の西洋絵画(特に英国絵画)について、幅広い世代に知ってもらう機会とする。

新型コロナウイルス感染蔓延以降、初めての西洋絵画巡回展となる。感染状況を踏まえながら、来館者が安心して鑑賞できる環境づくりを実現する。

・予算書の数値(収支、入館者数、有料率)の達成

【予算書想定】入館者数:85,000人(有料率68%、1,349人/日)

・アンケートなどお客様の声を通して、改善点があれば適切に対処し、満足度の向上を図る。 目標満足度83以上

D実施内容

【展覧会名】特別展「スコットランド国立近代美術館 THE GREATS 美の巨匠たち」

【会 期】7月16日(土)～9月25日(日) 63日間

【会 場】特別展示室1、南蛮美術館室、特別展示室2

【主 催】神戸市立博物館、毎日新聞社、NHK神戸放送局、NHKエンタープライズ近畿

【後 援】ブリティッシュ・カウンシル、Kiss FM KOBE

【協 賛】信越化学工業、DNP大日本印刷、公益財団法人日本教育公務員弘済会兵庫支部

【協 力】日本航空、ルフトハンザカーゴAG

【入場者数】73,086人(有料率:73.9%、1,160人/日)

【展示概要】スコットランド国立美術館群のコレクションより、16世紀から19世紀にかけての西洋美術史を代表する画家の作品を約90点選りすぐって紹介。

【関連事業】詳細は別紙資料表2を参照

【図 録】3,751冊(購入率5.13%)

【音声ガイド】12,618台(購入率17.2%)

【アンケート満足度】満足度:79.23 スタッフ対応:80.75 展示のみやすさ:74.73 解説のわかりやすさ:74.35 展示室の環境:77.37 展示品の質:83.79 図録:78.25

【収支バランス】達成度104%

【新型コロナウイルス感染症対策】

入館時の手指消毒、検温、マスクを着用して入室することの依頼を徹底。

日時指定予約優先制を採り、館内の滞留数緩和を図った。

一方、関連事業の定員数を感染状況を鑑みて引き上げ(記念講演会・毎週金曜日の解説会:定員80人)

自己評価

B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

・リニューアル以降、西洋美術の展覧会としては初めての大型海外展となったが、国家補償制度を活用し、安定した料金帯でスコットランド国立美術館の質の高いコレクションを紹介する貴重な機会となった。

・イブニングレクチャーや特別鑑賞会、またNHK主催のコンサートなど、関連事業に力を入れ、概ね好評を得ることができた。感染症対策をはかりながらも定員を増員し、より多くの方が安全に参加できるよう努めた。

・学芸員が作品を解説することを軸に広報展開(SNS、テレビ)を上手く活用し、後半の入場者の伸びにつながった。

・各展示室内の滞留数の上限を設定するとともに、運営スタッフと連携することで「安心して鑑賞できる環境づくり」に努めた。

自己評価の詳細 マイナス面

・想定していた入館者数に11,914人及ばず、アンケートの目標満足度が3.77下回った。入館者数については、感染症対策のため予約優先制を採用したことにより、予約システムを使用する手間や予約しないことにより発生する待ち時間への懸念のために、観覧意欲の低下があったと思われる。また満足度については、混雑状況や入場システムに対する意見が多く、その不満が反映されたものと考えられる。また、展示室の天井高不足からくる照明の不備を指摘する声も多く、大型作品の展示の問題点があらためて浮き彫りとなった。

・図録の色校正が十分にできなかった。

・終盤になるにつれて1階ホール及び外周りが混雑したことから学芸員がシフト制で対応せざるを得なかった。

2-2-02-03 よみがえる川崎美術館—川崎正蔵が守り伝えた美への招待—

P課題と目標

開館40周年を記念する特別展として、神戸にあった日本初の美術館である川崎美術館の歴史やコレクションの魅力を多くの方々を知ってもらう機会とする。

新型コロナウイルス感染状況を踏まえながら、来館者が安心して鑑賞できる環境づくりを実現する。

・予算書の数値(収支、入館者数、有料率)の達成

【予算書想定】入館者数:68,690人(有料率65%、920人)

・アンケートなどお客様の声を通して、改善点があれば適切に対処し、満足度の向上を図る。 目標満足度83以上

D実施内容

【展覧会名】開館40周年記念特別展「よみがえる川崎美術館—川崎正蔵が守り伝えた美への招待—」

【会 期】10月15日(土)～12月4日(日) 44日間

【会 場】特別展示室1、南蛮美術館室、特別展示室2

【主 催】神戸市立博物館、神戸新聞社、毎日新聞社、NHK神戸放送局、NHKエンタープライズ近畿

【特別協賛】川崎重工業株式会社

【協 賛】公益財団法人日本教育公務員弘済会兵庫支部、一般財団法人みなと銀行文化振興財団

【入場者数】50,862人(有料率:57.2%) ※1日平均1,155人

【展示概要】約110件の美術品、歴史資料を通じて実業家・川崎正蔵の日本・東洋の美術コレクション、及び日本初の私立美術館である川崎美術館の活動を紹介。

【関連事業】詳細は別紙資料表3を参照

その他、「フォトアワー」を実施。11月12日、19日、26日(いずれも土曜)の17時30分～19時30分まで、一部の作品の写真撮影ができる時間を設定した。

【図 録】2,206冊(購入率4.34%)

【音声ガイド】6,120台(購入率12.0%)

【アンケート満足度】満足度:83.25 スタッフ対応:83.05 展示のみやすさ:79.95 解説のわかりやすさ:81.38 展示室の環境:79.31 展示品の質:89.20 図録:82.33

【収支バランス】達成度:76.7%

【新型コロナウイルス感染症対策】

入館時の手指消毒、検温、マスクを着用して入室することの依頼を徹底。

関連事業の定員数減(記念講演会・毎週金曜日の解説会:定員50人)

自己評価 A 優れている

自己評価の詳細 プラス面

・神戸で活動した実業家・川崎正蔵、ならびにかつて神戸布引に存在した川崎美術館の功績を、市民をはじめ多くの方に知っていただく機会となった。

・本展を準備する中で、川崎重工業株式会社所蔵品をはじめ、これまで知られていなかった資料作品が新たに発見され、展覧会の内容にも反映することができた。

・事前予約制を導入しなかったが、感染症に関するクレームなどはほとんどなく、会場内でも大きな混乱はみられなかった。

・来館者増を目的に会期中中より、一部の作品について写真撮影を可能としたところ、SNSで好意的な意見がみられた。

・本展では特別協賛というかたちで、地元企業とも協力して開催の運びとなった。近年、謳われている「地域における文化観光拠点施設を中核とした文化観光の推進」の内容に添うような展覧会の開催となった。

・目標以上の満足度を得た。

自己評価の詳細 マイナス面

2-2-02-04 インド近代絵画の精華—ナンダラル・ボースとウペンドラ・マハラティ—

P課題と目標

- ・展覧会を通じて、インドの近代美術と日本との交流について幅広い世代に知ってもらう機会とする。
- ・限られた予算で、来館者が安心・満足して鑑賞できる環境づくりを実現する。
- ・予算書の数値(収支、入館者数、有料率)の達成
- 【予算書想定】入館者数:12,600人(有料率50%、221人/日)
- ・アンケートなどお客様の声を通して、改善点があれば適切に対処し、満足度の向上を図る。 目標満足度83以上

D実施内容

- 【展覧会名】インド近代絵画の精華—ナンダラル・ボースとウペンドラ・マハラティ—
- 【会 期】令和5年1月14日(土)～3月21日(日) 57日間
- 【会 場】特別展示室2
- 【主 催】神戸市立博物館、在大阪・神戸インド総領事館、神戸新聞社
- 【特別協賛】ニューデリー国立近代美術館
- 【入場者数】11,369人(有料率:50.6%、199人/日)
- 【展示概要】日印国交樹立70年の節目を記念して、ニューデリー国立近代美術館・パートナー美術館のコレクションからインド近代絵画を紹介する展覧会。インド近代美術の代表的画家であるナンダラル・ボースとウペンドラ・マハラティの作品25点を選びすぐって展示。特別出品として、当館所蔵の村上華岳作品を展示。
- 【関連事業】詳細は別紙資料表4を参照
- 【アンケート満足度】満足度:88.15 スタッフ対応:90.21 展示のみやすさ:86.13 解説のわかりやすさ:87.06 展示室の環境:87.21 展示品の質:89.14
- 【収支バランス】達成度115%
- 【新型コロナウイルス感染症対策】入館時の手指消毒、検温、マスクを着用して入室することの依頼を徹底。
- 【その他】2階コレクション展の観覧料(一般300円)で本展も観覧できるよう、動線や運営を検討して実施。

自己評価

自己評価の詳細 プラス面

- ・準備時間が短く、予算も大きく限られた中、福岡アジア美術館との巡回展として方向性を修正し、福岡アジア美術館の協力のもと、展示図面や動線、各種印刷物を工夫することで、無事展覧会を開催することが出来た。
- ・館内においては密に報告や相談をするなど細かなコミュニケーションをとることができた。
- ・普段日本では見ることの出来ない貴重なインド近代美術を紹介することができた。
- ・当館としては未経験の分野を扱う展示となったが、出品作の水準が高く、イレギュラーな動線かつ小規模な展覧会ながら、大きな混乱やクレームもなく、高い来観者満足度を得ることができた。
- ・アンケート集計の中には、コレクション展への関心やポジティブなコメントも多く確認され、コレクション展を動線の一部とすることへのメリットや可能性に気が付くことができた。
- ・収支バランスは黒字とすることができた。

B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 マイナス面

- ・インド側の事情により、展覧会の準備に大幅な遅延が生じ、展覧会の規模を縮小せざるを得なかった。
- ・特に費用の問題から仮設壁や監視スタッフを設置することができず、額物の作品を展示ケース内に展示することになり、来観者にとってやや見辛い展示になってしまった。
- ・出品作の性質や重要性が開催前に十分に把握できなかった。事前の情報収集や借用先との意思疎通など、国際的なコミュニケーション力の不足があったことは否めない。

2-2-03 企画展

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 令和6年度2月から開催予定の企画展「コレクション展示Deluxe(仮)」は、工事閉館終了後、次の特別展の開催までの間、コレクション展示室では物理的に展示できない大型の資料を中心に紹介する予定となっている。館蔵コレクションを活用し、コレクション展示室と一体に企画・展示をすすめることが望ましい。

2-2-03-01 企画展計画		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 <ul style="list-style-type: none">令和5年度の企画展の方向性を定める。令和7年度以降の企画展の方向性を定める。	D実施内容 <p>【令和5年度企画展】 5月～6月に担当者会議により、下記の通り開催概要案をまとめ、令和5年度の予算要求を行った。 展覧会名:企画展「コレクション展示Deluxe(仮)」 会期:令和6年(2024)2月10日(土)～3月24日(日) ※令和5年度秋からの外壁工事と調整 予算:2,932千円 内容:コレクション展示室では物理的に展示できない館蔵品の数々を分野ごとに小テーマを設け、紹介する。 特別展示室1-(古地図)蝦夷地へのまなざし(仮) 19世紀に對外関係が緊張する中で、世界中の関心を集めた蝦夷地の古地図を紹介。 南蛮美術展示室-(美術)江戸時代の異国趣味(仮) 江戸時代に異国文化の影響を受けて制作された美術作品を紹介。 特別展示室2-(考古・歴史)読みなおす兵庫津 港湾都市神戸の源流をたどる。平成16年(2004)開催の特別展「よみがえる兵庫津」以降の兵庫津研究を読みなおし、紹介。 出品点数:約100点 入場料:800円 入場者数:9,120人(240人/日)</p> <p>【令和7年度以降の企画展】 令和5年3月 令和7年度以降の企画展計画を学芸課職員全員で検討。令和9年度までのスケジュールが仮決定される。</p>	自己評価の詳細 プラス面 <ul style="list-style-type: none">令和5年度企画展の内容を決めることができた。令和7年度以降のスケジュールを立てることができた。	自己評価の詳細 マイナス面

2-2-04 特別利用等

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 博物館所蔵資料の画像利用・画像提供の件数で、令和3年度にくらべ、かなりの減少が見られる。これはデジタル・アーカイブへのアクセス数の減少と相関関係のあるかもしれないが、原因を精査する必要がある。館外貸出については、コロナ禍の規制緩和とともに件数が大幅に増加した。しかし、資料補修業務との関連を見過ごしたために、貸出不能に陥った懸案が生じたことは残念である。貸出業務と補修業務など所蔵資料の動向を見落とすことがない方策を確立する必要がある。

2-2-04-01 特別利用・画像利用・画像提供		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 <ul style="list-style-type: none">申請及び申込に対する手続きを迅速かつ適切におこなう。手続き中に発生した問題を記録し、来年度以降の運用方法、契約内容に反映する。	D実施内容 <p>【特別利用】申請32件361点 熟覧:32件／模写:1件／模造:0件／撮影:28件／その他:4件</p> <p>【画像利用】申請190件1084点</p> <p>ア) 国、地方公共団体が公共の目的でその事業の用途として利用するため申請するとき。:45件122点</p> <p>イ) 学校教育法第1条に規定する学校(大学は除く。)の教科書、学校(大学は除く。)が作成する教材の用途として利用するとき。:16件40点</p> <p>ウ) 博物館が調査研究、展示、広報等の用途として利用するため申請するとき。:74件587点</p> <p>エ) 営利を目的としない個人、団体が、営利を目的としない学術書(発行部数1,000部以下)、又は学術雑誌、調査報告書等もっぱら学術研究の用途として利用するとき。:55件335点</p> <p>オ) その他、神戸市が特に必要と認める利用のとき。:0件0点</p> <p>【画像提供】 314件490点 イメージアーカイブ登録751件</p> <p>【内規整備】</p> <ul style="list-style-type: none">これまで画像利用担当が画像を申請者に送付していたが、資料担当者が送付するように運用を変更した。また、送付用画像をデータベースに保存し、担当者が不在の際に備えられるようにした。令和5年度から、利用区分の「オ) その他神戸市が特に必要と認める場合」を削除することとした。	自己評価の詳細 プラス面 <p>【特別利用】</p> <ul style="list-style-type: none">申請手続きをスムーズに処理できた。 <p>【画像利用】</p> <ul style="list-style-type: none">申請手続きを迅速・適切に行った。 <p>【画像提供】</p> <ul style="list-style-type: none">業務委託業者と適宜連絡を取り合い、大きな遅延もなく提供を進めることができた。	自己評価の詳細 マイナス面 <ul style="list-style-type: none">画像提供については前年度と比べて申請件数が大幅に減少した。館蔵品について発信するとともに、より多くの人が利用しやすい方法を考えていく必要がある。

2-2-04-02 館外貸出		自己評価	C やや劣る
P課題と目標 <ul style="list-style-type: none">申請に関する手続きを迅速かつ適切に行う。申請に対しては、申請者・資料担当者との十分な調整を行い、遅滞ないように手続きを進める。申請の手続きにおける改善点を見直し、よりスムーズとなるようにする。 <p>【昨年度実績】 11ヶ所 107件167点</p>	D実施内容 <p>【館外貸出実績】20ヶ所 347件355点 詳細は別紙資料表5を参照。</p>	自己評価の詳細 プラス面 <ul style="list-style-type: none">今年度も昨年度に引き続き、資料担当者と館外貸出担当で事前確認を行い、書類の再提出が発生しないように努めた。これにより手続きの円滑化を実施することができた。昨年度の倍近い貸出希望先に貸出対応を行った。貸出資料・作品の件数は3倍、点数は倍以上となっており、館蔵資料・作品の魅力の発信・活用を行うことができた。	自己評価の詳細 マイナス面 <ul style="list-style-type: none">長崎歴史文化博物館「長崎の黄檗—隠元禅師と唐寺をめぐる物語」展のための館外貸出希望作品が補修中であることが確認できておらず許可書を発行した。この結果、貸出不可となり借用希望先に迷惑をかけることとなった。

2-2-05 広報

評価 A 優れている

評価の詳細 紙媒体による広報に加え、HP、SNS等を用いて効果的な広報が実施できた。開館時間の変更や台風による臨時休館などについても迅速に情報発信を実施できた。また、コレクション展示をアピールするため、訴求力のあるデザインのポスター、サイネージ、HPバナーを作成し、広く発信した点、高く評価される。

昨年度、多様な層に親しみやすいようデザインを一新した博物館だよりも、さらに見やすく、分かりやすい紙面へと改善した。昨年度新たに導入したInstagramのフォロワー数も順調に伸び、新たな層への発信を積極的に行った。

来年度は、HP、SNSによる発信に加え、サンポチカへの掲示、周辺施設との協調などもより強化し、三宮、元町、ウォーターフロントの回遊性の中での広報を意識して拡大していくこととしたい。

2-2-05-01 HP、SNS	自己評価 A 優れている		
<p>P課題と目標</p> <ul style="list-style-type: none">・【HP】更新作業フローの見える化を行い、遅滞なく適したタイミングで更新できるようルール整備をおこなう。見やすく分かりやすい情報提供を目指す。・【HP】ミュージアムカフェ特別室の紹介ページを新たに作成する。・【SNS】Facebook、Twitter、Instagramについて現状分析を行い課題を抽出し、改善に向けた対策案に基づいた年間計画を作成し、実行する。	<p>D実施内容</p> <p>【HP】</p> <ul style="list-style-type: none">・委託業者による更新件数 75件(昨年度比32件減)・職員による更新件数 55件(前年度14件)・訪問者数 734,330アクセス(昨年度比48%増)・HPのマニュアル整備 完了 <p>※コレクション展毎に、内容を紹介するトップバナーを随時作成。</p> <p>※開館日を表示するカレンダー機能を見直し。来年度に向けて、スムーズかつわかりやすいカレンダー機能を導入予定(令和5年4月1日付実施)</p> <p>【SNS】</p> <ul style="list-style-type: none">・Twitter フォロワー数:13,941(昨年度比約113%)、投稿数:204(昨年度比24件減)、インプレッション数:898,155(昨年度比28%減)・Facebook フォロワー数:3,651(昨年度比約100.3%)、投稿数:146(昨年度比34件増)、リーチ数:15,346(昨年度比16%減)・Instagram フォロワー数:1,835(昨年度比約311%)、投稿数:66(昨年度比27件増) <p>※Instagramのインプレッション数を確認するためには、ビジネスアカウントへの変更が必要</p>	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none">・Instagramのフォロワー数を、昨年度より多く獲得することができた。・HPにコレクション展を紹介するトップバナーを追加したり、カレンダー機能を見直すことで、視認性の高いページを作成することができた。・HPのアクセス数が増加した。	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none">・HPに特別室の紹介ページを作成することができなかった。・HP更新作業フローの整理や更新計画が不十分であった。

2-2-05-02 印刷物製作(博物館だより・展覧会予定等)	自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)		
<p>P課題と目標</p> <ul style="list-style-type: none">・博物館だよりを秋、春2回発行(122号は9月、123号は3月下旬)。・博物館だよりについて、来館者への館内での配布、関連施設への発送を行う。あわせて、博物館だよりのホームページにおける公開、SNSでの紹介を行う。・博物館だよりの誌面を再検討し、ニーズに合わせてデザインや内容を変更し、合わせて発行部数の見直しを行う。また今後、内容によって紙面の内容を増やす必要が生じた際に、紙面構成の変更等の対応策及びコストを検討する。	<p>D実施内容</p> <ul style="list-style-type: none">・博物館だより(年間スケジュール機能を兼ねる)を秋、春2回発行した。 <p>122号:9月30日発行(変形B5版8ページ)</p> <p>123号:3月24日発行(変形B5版8ページ)</p> <ul style="list-style-type: none">・配布期間中の来館者数を予測し、博物館だよりの部数の見直しを行った。 <p>122号:7,000部</p> <p>123号:7,000部</p> <p>(参考 博物館だより120号:4,000部、121号:7,000部)</p> <ul style="list-style-type: none">・来館者に向けて館内での配布を行った。 <p>配布場所:情報コーナー、ちらし置き場、インフォメーションカウンター</p> <p>広報のため、関連施設への発送を行い、配布を依頼した。</p> <p>発送先:小磯記念美術館、神戸ゆかりの美術館、市立図書館、各区文化センター、観光案内所等</p> <ul style="list-style-type: none">・博物館だより122号、123号のPDFをホームページに掲載した。・市民への配布分を多くするために、庁内への送付箇所を文化センター等の必要箇所に縮小した。・今年度は紙面構成の変更必要性は生じなかった。	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none">・博物館だよりについて、掲載する特別展、コレクション展示の内容について調整を行いながら、予定通り発行することができた。・関連施設へ発送を行い、博物館の活動を広報することができた。・9月発行の122号について、館内配布分を配り終えることができた。	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none">・SNSでの発信を行わなかった。

P課題と目標

・取材申し込みに対して、対応状況リストを担当者間で共有し、正確かつ迅速な情報発信に努める。

・広報活動に積極的に取り組み、神戸市内外の幅広い世代に向けて情報を発信する。

・コレクション展示やイベントなど博物館の日々の活動を発信することで、特別展期間外の来館者数の増加を目指す。

・館内外の掲示については、来館者が理解しやすい内容・レイアウトを心掛ける。また、素早く正確な発信ができるよう、マニュアルや作業スケジュールを共有する。

D実施内容

取材申し込み対応:26件
 記者資料提供:18件
 神戸市関係の広報媒体(広報紙KOBE等)への情報提供:6件
 その他広報媒体への情報提供:63件
 コレクション展示ポスター作成:8件
 館内サインージ更新:12件

自己評価の詳細 プラス面

・広報媒体への情報提供について、担当者間で適切に情報共有を行い、迅速に対応することができた。

・コレクション展示について、各展示の内容に合わせたデザインでポスターを作成し、館内外に掲示することで、来館者及び館周辺地域にも情報を発信することができた。

・サインージについて、更新を計画に基づいて適切に行い、コレクション展示・特別展に合わせたデザインを作成・掲示することができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・更新すべき情報が適切なタイミングで更新できていないことがあった。

2-2-06 広聴

評価 A 優れている

評価の詳細 来館者記入型のアンケートを実施し、アンケート結果の速やかなフィードバックを実施できた点が評価できる。また、従来の展覧会と詳細に比較検討ができるように蓄積されたアンケートデータを整理するとともに、より細やかなアンケート分析ができるよう入力フォーマットを整えた点が高く評価できる。
来年度開催予定のジブリ展では、ここ数年目標としていた、QR読取方式のアンケートも実施予定であり、これを契機として、より多様な意見を集約できるようなシステムを構築することとしたい。

2-2-06-01 広聴(展覧会等アンケート調査実施、結果集計)

自己評価 A 優れている

P課題と目標

- ・特別展、コレクション展示、1階無料ゾーンを対象とした記述式アンケートを実施し、その結果を職員に速やかに共有する。
- ・PCやスマートフォンを利用、あるいは記述式によらないアンケート方法を模索し、来館者がより気軽に意見をよせることができるシステムの構築を目指す。

D実施内容

- ・特別展、常設展期間中に、館内にアンケート用紙・回収箱を設置し、広聴活動を実施。回収した用紙は、日々回収、集計、回覧している。
- ①「大英博物館ミイラ展 古代エジプト6つの物語」(2月5日～5月8日)
回収枚数:727枚(入館者数:136,234人) 展覧会の総合評価:85.9
- ②「スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち」(7月16日～9月25日)
回収枚数:301枚(入館者数:72,996人) 展覧会の総合評価:79.2
- ③「よみがえる川崎美術館—川崎正蔵が守り伝えた美への招待—」(10月15日～12月4日)
回収枚数:257枚(入館者数:50,862人) 展覧会の総合評価:83.3
- ④「インド近代絵画の精華—ナンダラル・ボースとウペンドラ・マハラティ」(1月14日～3月21日)
回収枚数:455枚(入館者数:11,369人) 展覧会の総合評価:88.2
- ・昨年度まで、回収したアンケート用紙は紙のまま回覧していたが、PDFをメール送信するという方法に改めた。
- ・次年度特別展「ジブリパークとジブリ展」について、Googleフォームで実施するアンケートを作成中である。

自己評価の詳細 プラス面

- ・来館者記述式のアンケートを遅滞なく実施し、可能な限り展示や運営にフィードバックすることができた。
- ・回収したアンケート用紙をPDF化してメール送信することにより、寄せられた意見・要望を職員に迅速に伝達することができた。
- ・記述式以外のアンケートの方法として、Googleフォームで実施するアンケートを作成し、次年度に向けて新たな方法を準備することができた。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・アンケート集計に時間を要してしまった。

2-2-07 ミュージアムショップ

評価 A 優れている

評価の詳細 令和3年度から継続の取り組みとして、在庫管理のDXの本格化がはじまった。ショップとの情報共有など細かな問題で未解決な部分は残っているものの、より効果的な売上分析につながることも期待される。今年度も新たな商品開発が、コレクション展示などの出品資料に合わせた形で行われ、広報活動も展開されている。少しずつだがオリジナル・ミュージアムグッズへの関心が高まることが期待される。

2-2-07-01 ミュージアムグッズ開発

P課題と目標

- ・収蔵品によるオリジナルミュージアムグッズを作成し、展示にあわせて販売する。
- ・在庫管理簿、在庫管理課を一元化するために、管理課と学芸課の協議と意思統一を図る。

D実施内容

【オリジナルミュージアムグッズの作成と販売】
別紙資料表6を参照。
絵葉書の再販(4種)、測量野帳の新規作成・販売(2種)、ガラスピンズの新規作成・販売(8種)
【広報】
SNS Facebook、Twitter、Instagram:1月19日(カフェコラボメニュー)、1月31日、2月28日
記者資料提供 1月31日、2月28日
【在庫管理】
令和4年6月から管理課・学芸課双方で行っていた在庫管理を学芸課に一元化し、商品の出納記録と在庫管理簿をFileMakerに移行して電子化した。

自己評価 A 優れている

自己評価の詳細 プラス面

- ・収蔵品によるオリジナルミュージアムグッズを作成し、記者資料提供を含めた積極的な広報を行った結果、メディアに取り上げられるようになった。
- ・「測量野帳 五色塚古墳」については、文化財課と連携して販売促進を行った。
- ・ショップとの業務改善へ向けた協議を継続的に言い、より良いショップ運営のためのオペレーションや販売価格、委託契約の見直しにつながった。
- ・オリジナルミュージアムグッズの陳列棚を整備し、開催中の展示とグッズを関連づけるポップを継続的に作成することができた。
- ・在庫管理簿、在庫管理課を学芸課に一元化し、受渡書と在庫管理簿をFileMakerに移行したことにより、商品の受渡と在庫管理、売上分析を一つのファイルで行うことができるようになった。

自己評価の詳細 マイナス面

3. 人々とともに歩む

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 コロナ禍ではあったが、感染症対策に工夫をこらしながら、着実に各種普及講座に取り組んでいる点は評価に値する。また、神戸市イベント管理システムの導入により業務の効率化が進められている点も評価したい。ただ、入力ができない方々への対応も検討する必要がある。「人々とともに歩む」のは、そういった意味も内包していよう。博学連携についても旧状に復しており、十分な対応ができているものといえる。博物館の存在意義や活動を認知してもらうために、ここに掲げた項目と併せて、工夫を重ねながら今後とも継続していく必要がある。

3-3-01 普及事業

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 特に子ども向き講座での神戸市イベント管理システムによるオンライン申込が一般化でき、不要な個人情報を収集する必要がなくなったことは評価できる。ただし、一般向け講座はオンライン申込の難しい層が一定量あるため、コールセンターでの登録を行い、代理申請の手続きが必要となる。業務の効率化を今後も検討する必要がある。

土器づくり教室は今年度、焼成を神戸市埋蔵文化財センターで実施した。現地集合に伴う混乱はなかったが、おきしお夢はこぶ号を西神中央公園内にて展開するも、長い焼成時間を持って余ってしまったので、改善の余地がある。

浮世絵体験講座は特に大人に人気があった。今後もたくさんの方に魅力を知って体験してもらい講座として継続することが望ましい。

3-3-01-01 一般向け普及事業(館内オリエンテーション含む)	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<p>P課題と目標</p> <ul style="list-style-type: none">・「ミュージアム講座」「学芸員と神戸を巡る」について、参加者内80%以上の高評価を得られるよう、安全面に配慮した会場・プログラムづくりと充実した内容の提供を目指す。・「障がい者のための鑑賞会」「未就学児と保護者のための鑑賞会」や、一般向けオリエンテーション、ギャラリートークについて、積極的に告知・開催する。また各種鑑賞会についてはアンケートを実施、参加者の意見を集約し、継続の意義や課題を明らかにする。・昨年はスケジュールや新型コロナウイルス感染拡大にともなう対策等で開催できなかった講座・オリエンテーションを安全に配慮して開催する。・感染症対策を徹底した上で、定員を増やすことができるよう調整する。・web申し込みを推進し、通知メールによるリマインドなども検討する。	<p>D実施内容</p> <p>個々の実施内容については、別紙資料表7参照</p> <p>昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を実施した上で各事業を開催した。</p> <p>具体的な防止策として、定員制限、手指アルコール消毒と検温の徹底、使用バインダー・ペグシル・座席の適宜消毒、窓の開閉やサーキュレーターによる会場内の換気(室内での開催事業)、参加者間の間隔の確保、参加者の連絡先の記録を実施した。</p> <p>全国的に制限の緩和などが広がっており、一部の講座では定員の上限を増やすなどを行った。</p> <p>講座の申込方法については、オンライン申込(神戸市イベント管理システム)を基本とし、講座によっては神戸市総合コールセンターによる代理電話受付を併用した。</p> <p>講座開催において博物館ホームページやSNSでの発信、チラシ等を作成し広報を実施した。</p>	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症拡大の防止策を行ったことで、感染の発生やリスクを生じさせることなく、安全に各事業を開催することができた。・新しくなったイベント管理システムを導入して申込方法のオンライン化を行い、事務手続きが軽減された。また、インターネット環境が整っていない方向けに神戸市総合コールセンターを利用した電話受付での代理申込を実施した。オンラインでの当選者に対して、リマインドメールを送付するなど当日の参加忘れ防止に努めたため、問題なく申込方法を移行できた。・ミュージアム講座では、昨年度より定員を増やしたことで多くの方への研究成果の発信ができた。・学芸員と神戸を巡るでは、現地見学時に各参加者へイヤホンガイドを配布したことで、イヤホンで声を聞きながら現地を自由に見学し、離れた場所でも問題なく解説を聞くことができた。・ギャラリートークでは、定員は展示室の空間上、5人～10人程度の定員を設けたが、昨年度のように聴講場所の指定はせずに、参加者が自由にコレクションを観覧できるように実施した。・博物館をたのしむは、昨年度実施ができなかったが、今年度は全3回の開催ができた。展示ケース越しではない、実物のコレクションを学芸員が解説、見方をレクチャーすることによって「わかりやすかった」「面白かった」などアンケートにおいて好評を得た。・鑑賞会における各種鑑賞会・講座アンケートを実施し、「満足した」と回答を得た。

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
<p>・子供向け普及事業の開催は、開かれた博物館として教育普及活動の重要な事業のひとつである。子供たちに博物館での学びの楽しさを体験させるため、積極的に実施する。</p> <p>・展覧会に関連した魅力ある子供向けのプログラムを実施する。</p> <p>・新型コロナウイルス感染状況により、昨年度できなかったイベント(博物館たんけん隊等)を、感染防止・安全面等に配慮して行う。</p>	<p>【ジュニアミュージアム講座】</p> <p>「ピラミッド型ハンコをつくってみよう！」 4月23日(土) 参加費500円 午前の部:参加者8名 午後の部:参加者6名 全体申込者数154名</p> <p>「きみも巨匠になれるかな？」 9月11日(日) 参加費500円 午前の部:参加者8名 午後の部:参加者7名 全体申込者数18名</p> <p>【ワークショップ「浮世絵の摺り師に挑戦！」 6月19日(土)】</p> <p>子どもの部:参加費500円 参加者7名 申込者数33名 大人の部 :参加費1,000円 参加者7名 申込者数116名</p> <p>【夏休み土器づくり教室】成形日:7月23日(土)・24日(日) 焼成日:8月7日(日) 参加費1,000円 参加者19名 申込者数47名 神戸市埋蔵文化財センターにて焼成実施、おきしお夢はこぶ号出展</p> <p>【博物館たんけん隊】8月20日(土) 参加費500円 参加者13名 申込者数88名</p> <p>【こうべ歴史たんけん隊】3月18日(土) 参加費1組2,000円 参加者6組11名(申込者数同数)</p> <p>【移動博物館車おきしお夢はこぶ号イベント出展】</p> <p>5月14日(土)「KOBE元気まつり2022」メリケンパーク 11月5日(土)「古代体験フェスティバル」兵庫県立考古博物館 11月19日(土)「松蔭祭」松蔭女子学院大学 3月25日(土)「こども本の森神戸 一周年記念イベント」こども本の森神戸</p>	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <p>・昨年度まで新型コロナウイルスの感染状況によりできなかったイベント(博物館たんけん隊)を、今年度は実施することができた。</p> <p>・昨年度まで中止されていた館外のイベント(神戸まつり、古代体験フェスティバル、松蔭祭)が今年度開催され、おきしお夢はこぶ号の出展を中心に、学習支援交流員のワークショップ等行うことができた。</p> <p>・ジュニアミュージアム講座は、展覧会に関連したプログラムを実施できた。「ピラミッド型ハンコをつくってみよう！」は、申込者数が多かった。</p> <p>・ワークショップ「浮世絵の摺り師に挑戦！」は、申込者も多く、貴重な体験ができたという感想が多かった。</p> <p>・夏休み土器づくり教室は、今年度焼成を神戸市埋蔵文化財センターで行った。埋蔵文化財センターのバックヤードツアーやおきしお夢はこぶ号の展開など充実した内容となった。また、昨年度まではバスの借り上げ等で費用が高額になっていたが、今年度は現地集合として費用を抑えることができた。</p> <p>・こうべ歴史たんけん隊は、展覧会に関連したプログラムを実施できた。時間も「ちょうどよかった」という回答が多かった。</p>	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <p>・申込者数にばらつきが見られた。チラシ作成・配付ができない場合の案内を工夫する必要がある。また、内容が分かりやすいタイトルの発信も重要であると考ええる。</p> <p>・夏休み土器づくり教室は、参加者のアンケートに「実施時間が長い」という意見が多かった。開催時間の見直し、内容の工夫が必要とみられる。</p>

3-3-02 博学連携

評価 A 優れている

評価の詳細 連携授業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を実施し、安全に努めることで100回以上実施できた。学校来館についても新型コロナウイルス感染症拡大前の人数に復してきている。ただし、少人数での班行動を推奨しているため、オリエンテーションの実施数は少ない。博物館実習において、参加実習生は意欲的に取り組み、工夫して鑑賞ガイドを制作し、発表を行った。

3-3-02-01 連携授業（館内オリエンテーション含む）

P課題と目標

・博物館所蔵資料と関連付けた連携授業を、授業の進度に合わせて、学校と緊密に連携しながら実施する。
・連携授業については、例年通り、年間のべ100回以上を、安全面等に配慮しながら実施する。
・新型コロナウイルス感染状況により、休止していた館内オリエンテーションやトライやる・ウィークを再開する。
【昨年度実績】
・連携授業:75校(のべ143校)143回(400時間)のべ10,330名
・学校来館:32校 2,082名(引率者含む)

D実施内容

【連携授業実施学校数、人数等】
・74校(のべ138校)(小学校119、中学校13、高等学校1、特別支援学校5)
・138回(402時間)(小学校340、中学校47、高等学校2、特別支援学校13)、のべ10842名
・授業内訳
 古代体験14回、土器2回、銅鐸4回、源平30回、西洋22回、伊能図21回、文明開化16回、浮世絵24回、水墨画4回、港の発展1回
・学芸員の同行
 学芸員計6名が計20校の授業に同行。より専門的な説明を行い、授業を補助した。
【職員研修】
1回(神戸市立兵庫大開小学校にて夏期職員研修の実施。「学校連携」の紹介と「浮世絵」授業紹介)
【移動博物館おきしお夢はこぶ号の活動】
出動回数13回(13校)
【学校来館と館内オリエンテーション】
・127校(小学校10、中学校85、高等学校20、特別支援学校1、その他11)
・来館人数9,650名(小学校464、中学校6,749、高等学校2,095、特別支援学校13、その他329)(引率者含む)
・オリエンテーション実施校数11校(小学校6、中学校4、その他1)
【トライやる・ウィーク】
2校8名(1校2日間4名を2回実施)
【職業インタビュー】
4校
【来館に向けてのアナウンス】
オリエンテーション再開と内容のアナウンスを、神戸市内の学校向けに学期ごとに3回通知

自己評価 S 特に優れている

自己評価の詳細 プラス面

・連携授業は、学校側とスケジュール調整を行いながら、100回以上実施できた。
・多くの学芸員と授業に同行し、より専門的な説明・解説ができた。
・学校来館は昨年度から飛躍的に数が増えた。併せて長らく休止していたオリエンテーションを再開した。1日1校園のみ、人数制限を設け、時間を短く設定するなど、安全面に配慮して実施できた。
・トライやる・ウィークを秋季に実施することができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・連携授業の申込みが多く、年度当初で日程がほぼ埋まってしまったため、年度途中の問い合わせを断る状況が多かった。
・学校来館に関して、予約申込みのない学校が突然来館するなど、対応に追われることがあった。

3-3-02-02 大学との連携

P課題と目標

・神戸松蔭女子学院大学、神戸市外国語大学との連携協定にもとづき、双方の強みを活かした事業を企画し、円滑・安全に実施する。

D実施内容

【神戸松蔭女子学院大学】
・「神戸研究総論」への出講:5～7月 5回 履修者数52名
受講生のコメントシートには、多くの驚きや学びがあったことが記載されていた。
・松蔭祭へのおきしお夢はこぶ号の参加、展示協力
【神戸女子大学・神戸女子短期大学】
『食物と健康』の原稿執筆(夏・冬号への寄稿)
【神戸市外国語大学】ポスター、チラシの掲載及び特別展チケットの提供
学園祭「水曜祭2022夏」における宣伝広告・物品協賛
【武庫川女子大学】おしゃまニ居留地(2023年2月15日掲載記事)
取材対応、文章校正

自己評価

B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

・昨年度は緊急事態宣言発令に伴うオンライン講義を実施することとなったが、今年度は対面での実施となり、学生の反応を直接みながら授業を実施できた。
・新型コロナウイルス感染症により実施されていなかった学園祭への参加が再開された。
・講義の実施、冊子への原稿執筆も昨年度より引き続き実施できている。

自己評価の詳細 マイナス面

・神戸市外国語大学において、学園祭での協力以外での事業協力が実施できなかった。

P課題と目標

- ・学生が安心・満足して実習課題に取り組めるように、PDCAサイクルを意識したプログラムを作成し、できるかぎりフィードバックの時間を充実させる。
- ・学生からの「当館での実習希望理由」をもとに、関心の高い内容(震災、展示方法等)について、実習内容に反映させることで、学びを深める。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を実施しつつ、学生に実りある実習プログラムを組み、安全に遂行する。
- ・実習希望学生が余裕を持って実習先を探せるよう、募集に係るスケジュールを改める。

D実施内容

【実習生募集と受入】

2月18日 当館HPにて実習生募集を開始。(前年度3月5日)

4月20日 申込締切(必着)。定員16名(8名×2班)に対して、15校19名より応募があった。(前年度4月30日)

4月26日 書類選考の結果、12校16名に受入予定通知を送付。前年度5月20日)

6月15日 受入大学及び実習生に対して、実習費用納付書、実習プログラム、実習課題の詳細と注意事項を通知。

【実習日程】

第1班:8月23日～8月27日 5日間 8名

第2班:8月30日～9月3日 5日間 5名

※実習予定の学生が1名辞退。

※実習開始直前に1名がコロナ罹患・1名が濃厚接触者となったため、計2名の受け入れを断念。

【実習内容】

別紙表8参照

【コロナ対策】

- ・感染症対策を考慮した実習プログラムを進めるため、前年度と同様定員を従前の30名(15名×2班)から16名(8名×2班)に変更。
- ・日々、自宅及び博物館にて検温し、チェックシートを提出。
- ・受講生、講師ともマスク着用。適宜手洗い、アルコール消毒を実施。
- ・実習生の滞在時間短縮のため、実習日数・時間は文科省の「博物館実習ガイドライン」最低限の5日間・30時間とした。
- ・講義は、通常よりも広い講堂を使用。作業場所も十分な間隔が取れる3階大会議室を使用。「日博協ガイドライン」に基づき、座席は原則として指定席とし、十分な座席の間隔(四方を空けた席配置等)を確保し、換気をはかった。
- ・資料取扱は1班4名の2班編成とし、実習生と学芸員が密にならないようにした。
- ・昼休憩は、3階大会議室と3階小会議室の2室に分散した。

【実習課題】「鑑賞ガイドの作成」

当館学芸員となった前提で、神戸の歴史展示・コレクション展示、ホールケースに展示中の作品・資料から必ず1点以上を選び、鑑賞ガイドの作成を課した。鑑賞ガイドのサイズ、形態、枚数、製作方法は問わず、受講生の自由な発想で取り組むこととした。最終日に各受講生の作成した鑑賞ガイドを体験した後、鑑賞ガイドの製作意図や工夫した点などの発表を課し、その上で学芸員などからの講評を行った。

自己評価の詳細 プラス面

- ・募集時期や締切を早めたことで、ゴールデンウィークまでに受入可否について書類を発送でき、スムーズな通知を行うことが出来た。
- ・コロナ禍での実施となったが、定員やプログラム、実習課題の見直し、少人数での活動、部屋の換気、消毒・検温の徹底などを工夫することで、実習生、職員とも健康に留意し、感染者が出ず、参加した全実習生が実習を修了できた。
- ・実習課題の作成にあたっては、前年度に引き続きPDCAサイクルを意識して日々学生に作成時間を設け、学芸員によるヒアリングとフィードバックを行った。斬新かつ柔軟な発想により、各実習生の独自性に富むガイドが作成され、実習生はもとより当館学芸員にとっても大きな学びの機会となった。
- ・定員減は、実習生ひとりひとりへの配慮、プログラムの充実化につながり、実習生のみならず、担当者の業務態度や向上心にも良い影響を与えている。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・前年度に引き続き、実習プログラムや部屋の大きさの都合、定員を減じたため、結果として、当館を希望する一部の学生を受け入れられなかった。
- ・本年度も書類選考を行ったが、当館の実習内容やプログラムが事前に把握できるように募集告知を十分にしていなかったために、当館の専門性や特色と合致しない希望理由で応募する学生が多く、選考が若干難航した。
- ・受入予定の実習生の途中辞退やコロナ罹患等による参加見合わせによって、最終的には定員割れが生じた。

3-3-03 学習支援交流員

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 今年度は定例会を例年通り12回開催し、ワークショップの準備についても制約がある中、進めることができた。特に、年度後半においては館内においても学習支援交流員によるワークショップを再開するなど、新型コロナウイルス感染症対策が緩和される中、徐々に活動を再開できたことは評価できる。
昨年度からの目標であった学習支援交流員の規約改正を実施し、登録資格について規約内に定めた。

3-3-03-01 学習支援交流員の活動(定例会・研修・活動人数)		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 <ul style="list-style-type: none">・学習支援交流員の定例会、勉強会、研修を開催する。・昨年度の検討結果にもとづき、学習支援交流員にかかる規約の見直しと改正を行う。・学習支援交流員担当以外の学芸員へ、積極的な学習支援交流員の活動への参加を求める。・学習支援交流員の新規募集の再開時期について検討する。・学習支援交流員の活動を行う際に、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策を行う。	D実施内容 <p>【学習支援交流員の活動】 学習支援交流員19名、学習支援交流員アドバイザー24名 定例会:原則毎月第一金曜日午後2時から実施。参加延べ人数355名(各回平均人数29.5名) 勉強会:3回 参加延べ人数90名。 研修:2回(登録のための研修会を実施。1回は外部講師による)参加延べ人数71名。(当日欠席した受講希望者は後日動画視聴) 博物館支援事業:12回 参加延べ人数175名</p> <p>【学習支援交流員にかかる規約】 規約の改正案を作成し法務支援課の確認を得た。令和5年度より改正規約を施行予定。</p> <p>【学習支援交流員の新規募集】 新型コロナウイルス感染拡大により生じた、募集・活動開始日程の変更の是正、及び登録者増加により、十分な広さを確保できる活動場所の提供が困難なため、新規募集は行わなかった。</p>	自己評価の詳細 プラス面 <ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症により学習支援交流員の活動が制限される中、可能な限り定例会を開催して情報共有を行った。・昨年度に新規募集して学習支援交流員が増えたこと、新型コロナウイルス感染症対策が緩和してきたこともあり、昨年度よりも定例会への平均参加者数が増加した。・次回定例会の案内や連絡事項、定例会資料などを学習支援交流員にメールで連絡し、情報共有を行なった。・博物館事業支援、ワークショップ開発・準備・勉強会の活動を少人数に限定することで行った。活動の際は体温測定、手指の消毒、ドアの開放、サーキュレーターの使用で感染防止に努めた。・博物館学芸員による勉強会を開催した。勉強会を担当した学芸員と学習支援交流員の交流の機会となった。・学習支援交流員規約の改正を行った。	自己評価の詳細 マイナス面 <ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症によって学習支援交流員の活動が制限された。・展覧会や博物館外イベントなどの関連事業は、感染症対策の観点から博物館職員で対応したため、学習支援交流員が十分に活動できなかった。・年度当初は学習支援交流員定例会の議事録を博物館職員全体に回覧していたが、年度途中から担当以外の職員へ回覧することがなくなり、交流員担当以外の職員との連絡が十分に行えなかった。

3-3-03-02 学習支援交流員による講座・ワークショップ

P課題と目標

- ・イベントにおけるワークショップの実施。
- ・体験学習室でのワークショップ、居留地ガイドの実施。
- ・新規ワークショップの開発。
- ・既存ワークショップの技術、知識を学習支援交流員の間で共有する機会を設ける。
- ・ワークショップのマニュアルを作成する。
- ・学習支援交流員が活動を円滑に実施できるよう、学芸員は助言や補助、広報、資材の調達などを行う。
- ・ワークショップを実施する際に、新型コロナウイルス感染症対策を行う。

D実施内容

- 【イベントにおけるワークショップ】
- 5月14日(土)KOBE元気まつり2022:交流員20名 参加者浮世絵に挑戦約200名 銅鐸を作ろう(紙コップ銅鐸約75名 乾拓約84名) おきしお号514名
- 3月25日(土)集まれ!こども本の森:交流員20名 参加者浮世絵に挑戦約200名 銅鐸を作ろう(紙コップ銅鐸122名、乾拓133名) おきしお号288名
- 【館内ワークショップ・居留地ガイド】
- 館内ワークショップ:開催合計日数7日、学習支援交流員延べ人数47名 参加者延べ人数167名 (紙芝居(ザビエル、伊能忠敬、シムさん)、拓本、湿拓、浮世絵、紙コップ銅鐸)
- 居留地ガイド:
- 7月2日(土)10:30~ 交流員7名、参加者9名
- 11月12日(土)10:30~ 交流員8名、参加者8名
- 【新規ワークショップの開発】
- ・紙芝居「シムさん(アレキサンダー・キャメロン・シム)」
 - ・切子模様の万華鏡を作ろう!
- 【ワークショップのマニュアル】
- ・居留地ガイド
 - ・切子模様の万華鏡を作ろう!
- 【学芸員の助言や補助、広報、資材調達など】
- ・居留地ガイド・万華鏡のマニュアル作成にかかる助言・監修
 - ・ワークショップ開催前の館内掲示物(ホワイトボードの作成)や博物館SNSを活用した広報
 - ・ワークショップにかかる消耗品の購入
- 【感染症対策】
- ・学習支援交流員やワークショップ参加者への検温、手指の消毒
 - ・ワークショップにおける学習支援交流員及び参加者の人数制限

自己評価の詳細 プラス面

- ・新型コロナウイルス感染症拡大によって、学習支援交流員の活動が制限される中において、可能な限り定例会を開催して情報共有を行った。また、定例会を通常開催している講堂以外に、展示室も活用することによって、定例会開催の機会を増やした。
- ・一昨年度から新型コロナウイルス感染症対策のために自粛していた館内ワークショップと居留地ガイドについて、感染症対策をしながら、実施することができた。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・新型コロナウイルス感染症拡大によって、学習支援交流員の活動が制限され、学習支援交流員・活動アドバイザーの満足度を上げることができなかった。
- ・展覧会、教育普及等に伴う関連事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の面から職員で対応したため、学習支援交流員が参加できなかった。
- ・学習支援交流員の活動日等について、担当以外の職員への周知が不十分であった。

3-3-04 地域連携・共催事業

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 各区文化センターや公民館、婦人大学などに学芸員が出向く連携講座は、博物館資料や展覧会について、多くの市民に知ってもらう機会となった。
また、地域のイベントへ参加をすることで、学習支援交流員の活動や博物館資料を身近に知ってもらう機会となった。

3-3-04-01 地域連携・共催事業(神戸市民文化振興財団、木曜会などの連携含む)

自己評価 A 優れている

P課題と目標

・地域の関係団体と連携し、博物館の強みやスキルを活かした事業を企画、実施する。

D実施内容

【神戸市文化振興財団との連携事業による講座】

文化センター地域セミナー 6回開催 のべ160名参加

特別講演会 2回開催 のべ40名参加

【婦人大学】

10月12日 51名参加

【阪神間美術館・博物館連絡協議会(木曜会)】

対面式の会議が4回実施された。新型コロナウイルス感染症の影響による規制が緩和される中で、各館がどのような対応を実施していくのか等、活発な意見交換を行った。

【長田公民館】

リフレッシュセミナー「長田の歴史」(6月17日)開催に協力 67名参加

【その他】

「神戸まつり代替イベント KOBE元気まつり2022」(ワークショップ・おきしお出展:5月14日)開催に参加。

「こども本の森 神戸 1周年記念イベント」(ワークショップ・おきしお出展:3月25日)開催に参加。

【KOBEMuseumリンク】

神戸市内の21の博物館・美術館で構成され、月1回の定例会と広報担当者会を開催し、共同事業の企画実施や情報交換を行った。

11月24日～2023年2月17日、スマートフォンを用いた非接触型の「デジタルスタンプラリー」に参加 スタンプ数91

【旧居留地連絡協議会】

旧居留地に事業所等を設置している企業・事業者約110社で構成された地域団体であり、まちづくり、防災、環境保全、親睦等の活動を行っている。

広報誌の発行「居留地会報NO43」や地域の賑わいづくりイベント「旧居留地音楽会と食のプロムナード(11月5日)」を開催。

「旧居留地の歴史と建物を学ぶ」(6月25日)開催に協力 27名参加

自己評価の詳細 プラス面

・神戸市文化振興財団との連携事業による講座では、これまで開催してきた文化センターでの地域セミナー(特別講演会など)を実施し、より多くの人たちに神戸の歴史文化について知ってもらうことができた。

・阪神間美術館・博物館連絡協議会(木曜会)について、新型コロナウイルス感染症の規制緩和についてなど、他館と活発な意見交換を行うことができた。

・「神戸まつり代替イベント KOBE元気まつり2022」、「こども本の森 神戸 1周年記念イベント」では、おきしお号の出展及び、学習支援交流員によるワークショップの開催など、地域との関わりの中で幅広い活動を展開することができた。

・KOBEMuseumリンクにおいては他館との情報共有を行うことができた。

・旧居留地連絡協議会の各種行事等に参加、協力することにより、地域貢献につながった。

自己評価の詳細 マイナス面

・実施実績を館内で共有するまでにタイムラグがあった。

4. やさしさと安心の確保

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 求められる役割は、果たせたと考えられるが、来館者サービスの向上や施設・設備の抜本的な改善等には結びついたとまでは言えない。予算確保を伴う事項もあるが、日々業務の中で来館者の目線に立ったサービスの提供や環境の維持・改善に結びつくよう、できることを着実に進めていく必要がある。

4-4-01 施設管理

評価 A 優れている

評価の詳細 設備総括管理委託業者と連携し、設備稼働状況等の情報を共有し、計画性をもって設備保守点検、更新等が実施できた。しかし、建物や設備自体の老朽化が進んでおり、屋上加湿用ボイラー1機の更新は出来たが、それ以外の補修・更新については予算の制約がある中で十分な補修、更新工事までは出来なかった。ただ次年度予算要求において、①外壁全面改修工事②老朽給水管更新工事③ガス吸収式熱源更新工事④照明設備のLED化工事の予算が認められた。次年度において臨時休館を行い、建築住宅局営繕部及び設備総括管理委託事業者と連携を密にしながら工事を実施していきたい。なお、次年度の大規模な改修工事の実施により施設の長寿命化が図られるため、当分の間は小修繕を除き大規模な改修工事は発生しないと考えられる。

4-4-01-01 建物・設備の現状と課題、長寿命化の計画と対策

自己評価 A 優れている

P課題と目標

設備総括管理業務の委託業者と連携し、設備稼働状況等の情報を共有し、計画性をもって設備保守点検、更新等を実施する。

D実施内容

- エレベーターや消防設備等の点検、その他法定点検を実施し、不備等があれば適切な修理や部品の交換等更新を行った。
- 空調機器等の設備機器の運転・管理を適切に行った。
- 屋上加湿用ボイラー1機の更新を行った。

自己評価の詳細 プラス面

- 設備総括管理業務を委託している事業者と連携を密にしながら、適切な設備の維持管理と改修工事、改修計画を確実に行った。
- 建物、設備自体の老朽化が進んでおり、経常的な予算での補修等は困難な状況にある。そのため、大規模更新工事予算の獲得に努めた結果、次年度において臨時休館を行いながら①外壁全面改修工事②老朽給水管の更新工事③ガス吸収式熱源更新工事④照明のLED化工事などを実施する予定である。

自己評価の詳細 マイナス面

- 経常的な施設改修予算の増額要求を行ったが、シーリングがかかっているため、残念ながら増額は認められなかった。

4-4-02 インフォメーション、ショップ・カフェ

評価 A 優れている

評価の詳細 インフォメーション業務に関しては、日報、月報、入館者情報等適時適確に報告を受け、1階インフォメーション及び2階コレクション展示室入口での来館者対応、並びに3階事務室での電話交換業務が円滑に実施できた。
ミュージアムショップに関しても、メニューにも地産地消を図るなどの工夫を凝らすとともに、来館者が博物館だけでなく居留地や三宮・元町など周辺地域にも足を運んでもらいやすい企画を展開するなど、入館者に喜ばれる質の高いサービスを提供することができた。

4-4-02-01 インフォメーション		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 ・1階インフォメーション及び2階コレクション展示室入口での業務を円滑に実施すること。 ・3階事務室内での電話交換業務を円滑に行うこと。 ・日報を正確に作成するとともに、入館者情報を適時適確に把握すること。	D実施内容 ・日報、月報、入館者情報等、適時適確に報告を受けた。 ・入館者への案内を迅速、適切、丁寧に行っており、苦情にも粘り強く対応した。 ・博物館職員や警備、清掃等の館内関係者との連携を図り、来館者の立場に立った対応を行った。 ・館内関係者からなる館内連絡会等において、来館者目線からの改善点の視的など円滑な運営につながる貴重な意見の提案など、館の運営改善に役立った。	自己評価の詳細 プラス面 ・インフォメーションスタッフの来館者目線からの対応により、来館者からお褒めの言葉をいただくこと等につながった。 ・当館職員とインフォメーションスタッフとの間で円滑に業務を遂行することができた。	自己評価の詳細 マイナス面

4-4-02-02 ミュージアムショップ・カフェ		自己評価	A 優れている
P課題と目標 入館者に喜ばれる質の高いサービスを提供すること。	D実施内容 ・神戸ビーフや神戸ポーク、地元産野菜などを多用するなど地産地消を積極的に取り入れ、美味しさはもちろんのこと近年の健康志向にもマッチしたメニュー作りに取り組んだ。 ・令和4年度に実施した特別展(大英博物館ミイラ展、スコットランド国立美術館展、インド近代絵画の精華展)において、イギリスやスコットランド、インドなどに因んだコラボメニューを提供し、来館者が特別展と合わせて楽しむことができるメニューを開発し、お客様の満足度を高めるなど博物館の魅力向上に努めた。 ・さらに、来館者が博物館だけでなく居留地や三宮・元町周辺にも足を向けてもらいやすいよう、博物館の入場券の半券を提示することにより、10%割引となる多くの飲食店とのタイアップ企画、飲食店を紹介するマップの作成などを行い、地域全体の活性化にも大きく寄与する取り組みを行った。	自己評価の詳細 プラス面 ・レトロで趣のある昭和初期の建物である、当館の雰囲気を生かした店舗づくりが行われた。 ・メニューにも工夫を凝らし、地域全体の魅力向上につながるような取り組みも行うことができた。 ・ミュージアムカフェ特別室の家具について、管理を明確に取り決めるとともに、修理作業を行うことで、持続的な活用に向けて体制を整えることができた。	自己評価の詳細 マイナス面

4-4-03 警備、清掃

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 警備については、入館者チェックを厳格に行うとともに、館内、館周辺の巡回警備を適切に実施し、展示、館蔵資料の良好な保存環境の保持と盗難・破損などの不測の事態に備えた警備を実施することができた。
清掃に関しては、日常清掃、定期清掃ともに適切・確実に実施できた。また、新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、殺菌等も含めたきめ細やかな清掃を実施した。

4-4-03-01 警備		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 展示・館蔵資料の良好な保存環境の保持と、盗難・破損からの保護、並びに来館者への快適な鑑賞空間の提供のため、万全な警備を実施すること。	D実施内容 <ul style="list-style-type: none">・機械警備については、午後10時から翌日午前5時まで実施。・人的警備については、昼間は通常2人体制、夜間は24時間勤務の1人体制で常駐警備を実施。休館日、臨時休館日については1人体制で実施。・西側通用門における入館者チェックを厳格に行い、不測の事態の発生予防に努めた。・館内、館外(館周囲)の巡回警備を適切に実施。	自己評価の詳細 プラス面 <ul style="list-style-type: none">・立哨警備及び巡回警備について、特に問題なく業務が遂行できた。・開館時の正面正門の開門時についても、時間を厳守し、丁寧な業務が遂行できた。	自己評価の詳細 マイナス面

4-4-03-02 清掃		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 清掃業務は開館日は3人体制で、開館時間までに業務を完了すること。臨時休館日は2人体制で適切に実施すること。	D実施内容 <ul style="list-style-type: none">・日常清掃、定期清掃(年2回)ともに適切に実施した。・展示室、回廊、ホール、トイレなど入館者が利用する場所、事務室等施設側が使用する場所ともに手順に従い適切に業務を実施した。特に、新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、殺菌等も含めたきめ細やかな清掃を実施した。	自己評価の詳細 プラス面 日常清掃、定期清掃とも適切・確実に実施できた。	自己評価の詳細 マイナス面 来館者の年齢層によって異なるニーズに合わせた清掃業務を行うことができなかった。具体的には、子供が多く訪れた「大英博物館ミイラ展」ではトイレの洗面台の水撥ねが発生したが、こまめなトイレ清掃を行うなどの提案を引き出すことができなかった。

4-4-04 緊急時対応

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 緊急事態への対応では、スタッフ間の連携により、本人への体調確認や同伴者等からの情報収集、救護室への案内や救急車の要請等を円滑に行うことができた。想定外の事態の発生は無かったが、全ての職員・スタッフが万が一の時にはどうすべきかを常に意識する習慣づけができた。
大規模災害への対応策では、例えば火災発生では出火場所・原因に応じた適切な避難誘導が必要であることを職員・スタッフ全員で共有できた。
また、新型コロナウイルス感染対策として従来の対応策に加えて、コインロッカー、手すり、エレベーターの操作ボタン、トイレなど多くの方が手指に触れる箇所に抗菌処理を施工した。

4-4-04-01 緊急事態への対応状況(来館者対応、事件・事故・災害対応)		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 想定外の事態にも対応できるよう、全ての職員・スタッフが万が一の場合の対応を常に意識しておくこと。	D実施内容 ・来館者の体調・怪我等の対応については、適時スタッフ間の連携により、本人への体調確認や同伴者等からの情報収集を円滑に行い、救護室への案内や救急車の要請等、円滑に行うことができた。 ・新型コロナ感染症拡大を防止する観点から、措置後の救護室等の消毒等も漏れなく円滑に実施できた。	自己評価の詳細 プラス面 ・想定外の事態の発生は無かったが、全ての職員・スタッフが万が一の時にはどう対処すべきかを常に意識しておくことができた。	自己評価の詳細 マイナス面 ・些細な事象にも大きなリスクが潜んでいる場合もあることを常に認識し、行動する必要がある。

4-4-04-02 大規模災害への対応策		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 ・消防・救急計画の周知徹底 ・実態に即した避難訓練の実施 ・新型コロナ感染症対策	D実施内容 ・特別展(スコットランド国立美術館展、川崎美術館展)開催前日に、出火原因に応じた消防避難訓練を実施した。 ・出火場所に応じた、適切な避難誘導が必要であることを職員・スタッフ全員で情報を共有した。 ・新型コロナ感染症対策として①来館者へマスクの着用、検温、手指の消毒への協力をお願いした。②事務室等へのアルコール消毒液の設置、インフォメーションカウンターに接客用アクリル板を設置した。③コインロッカー、手すり、エレベーターの操作ボタン、トイレなど多くの方が手指に触れる箇所に抗菌処理を施した。	自己評価の詳細 プラス面 ・消防避難訓練を通じて、職員・スタッフの防災への意識付けができた。 ・新型コロナ感染症対策を確実に実施した。	自己評価の詳細 マイナス面 ・阪神淡路大震災から28年が経過し、当館職員の大半が当時の経験を持たない職員構成となっている。当時の経験など伝承することが課題となっている。 ・消防訓練時、連絡ミスで3階のフロアのみ警報が鳴動しなかったという不具合があった。

表1

●特別展「大英博物館ミイラ展 古代エジプト6つの物語」			
1. 記念講演会			
月 日	タイトル	講 師	参加者
2月27日	「大英博物館ミイラ展の見どころ ー古代エジプトの埋葬習慣と来世観ー」	河合 望 氏 (金沢大学 教授)	40名
2. イブニングレクチャー			
	内容	講 師	参加者
毎週金曜	展覧会のみどころ解説 (5回) ※2月5日～3月31日実施	当館学芸員	236名

表2

●特別展「スコットランド国立近代美術館 THE GREATS 美の巨人たち」			
1. イブニングレクチャー			
	内容	講 師	参加者
毎週土曜	展覧会のみどころ解説 (全10回)	当館学芸員	782名
2. 未就学児と障がい者向け鑑賞会			
8月1日	障がい者向け鑑賞会 (13:30～16:00)	—	34名
	未就学児と保護者向け鑑賞会 (9:30～12:00)	—	16名
3. N響コンサート			
	内容	講 師	参加者
9月19日 (午前の部)	展覧会に関連した弦楽四重奏の演奏会	NHK 交響楽団	39名
9月19日 (午後の部)	展覧会に関連した弦楽四重奏の演奏会	NHK 交響楽団	28名
4. サタデーナイトフォトアワー			
毎週土曜	17:30～19:30の間、作品撮影可	—	—

表3

●開館40周年記念特別展 よみがえる川崎美術館ー川崎正蔵が守り伝えた美への招待ー			
1. 記念講演会			
月 日	タイトル	講 師	参加者
10月16日	「よみがえる川崎美術館」	石沢 俊 (神戸市文化スポーツ局 文化財課 担当係長)	46名
2. 学芸員が語る「よみがえる川崎美術館」			
11月19日	九州国立博物館所蔵阿弥陀三尊像の表現について ー神秘と世俗の狭間	川野 憲一	30名
	宝玉七宝ー支援家としての川崎正蔵	中山 創太	
11月26日	岩崎虔『征西日記』にみる川崎正蔵のヨーロッパ巡遊	水嶋 彩乃	54名
	円山応挙による旧帰雲院障壁画について	山田 麻里亜	
3. イブニングレクチャー			
	内容	講 師	参加者
毎週土曜	展覧会のみどころ解説 (全8回)	当館学芸員	448名
4. フォトアワー			
11月		—	—

表4

●インド近代絵画の精華ーナンダラル・ボースとウベンドラ・マハラティー			
1. 記念講演会			
月 日	タイトル	講 師	参加者
3月11日	「ナンダラル・ボースと詩聖タゴール」	大西 正幸 (ベンガル近現代文学研究者) 畠中 光享 (日本画家)	50名
2. 学芸員による解説会			
2月11日	展覧会のみどころ解説	当館学芸員	23名
2月18日			

表5 館外貸出

京都国立博物館	特別展「最澄と天台宗のすべて」(4月12日～5月22日)	「天台四相像」：寄託品1件1点
九州国立博物館	特別展「北斎」(4月16日～6月12日)	葛飾北斎「日本橋 阿蘭陀画像 江戸八景」など：7件7点
神奈川県立歴史博物館	「地図最前線 一枚の地図からデジタルマップへ」(7月16日～9月25日)	「兵庫神戸実測図」など：9件9点
あいち遺跡ミュージアム	企画展「弥生人といまの2022 シカをねええ！」(7月23日～9月19日)	国宝「桜ヶ丘4号銅鐸」複製品など：2件2点
下関市立美術館	特別展「山水画と風景画のあいだー真景画の近代ー」(8月20日～10月16日)	「駿州柏原富士図」など：3件3点
市立伊丹ミュージアム	特別展「蕪村の手紙II」(9月10日～11月6日)	与謝蕪村「蕪村書簡及び鶴飼図」など：2件2点
秋田県立近代美術館	特別展「秋田蘭画の世界ー『解体新書』から≪不忍池図>へ」(9月17日～11月13日)	佐竹曙山「椿に文鳥図」など：18件21点
龍谷大学龍谷ミュージアム	特別展「蒐集」(9月17日～11月23日)	昇齋一景「元昌平坂二於テ博覧会書人群集之図」など：2件2点
香川県立ミュージアム	特別展「風景が物語る瀬戸内のカ-自然・歴史・人の共鳴-」(9月23日～11月6日)	狩野吉信「源平合戦図屏風(一の谷・屋島合戦図)」など：6件6点
高槻市立しらあ歴史館	特別展「戦国武将 三好長慶-生涯と人々-」(9月23日～11月20日)	「天文9年(1540)12月27日付 三好長慶書下」など：6件6点
神戸市文化スポーツ局文化財課	企画展「元素でたどる考古学」(9月23日～11月27日)	「伯母野山遺跡出土石製分銅」など：2件2点
兵庫県立考古博物館	特別展「丹波焼誕生-はじまりの謎を探る」(10月1日～11月27日)	「丹波焼 瓜螺鳥刻文壺」など：2件2点
京都国立博物館	特別展「京(みやこ)に生きる文化 茶の湯」(10月8日～12月4日)	「隠元隆琦像」：1件1点
神戸市立小磯記念美術館	特別展「竹中郁と小磯良平-詩人と画家の回想録-」(10月8日～12月18日)	川西英「曲芸」など：13件13点
東京ステーションギャラリー	「鉄道開通150周年記念展 鉄道と美術の150年」(10月8日～2023年1月9日)	7件10点
長崎歴史文化博物館	「長崎の黄檗-隠元禅師と唐寺をめぐる物語」(10月15日～11月27日)	「林道栄像」など：13件15点
神戸ゆかりの美術館	特別展「川西 英～三つの百景」(10月15日～12月25日)	川西英「神戸百景」(1)みなとの祭りなど：200件200点
福島県立美術館・千葉市美術館	「没後200年記念 垂欧堂田善」(福島会場10月29日～12月18日、千葉会場1月13日～2月26日)	垂欧堂田善「今戸瓦焼図」など：39件39点
郡山市立美術館	「亀井至一、竹二郎兄弟をめぐる人々 近代黎明貴の美術・写真・油絵・版画の相関図」(11月3日～2023年1月9日)	「弘安四年鑿元兵於築海図」など：9件9点
国立歴史民俗博物館	企画展「いにしえが、好きっ！-近世好古図録の文化誌-」(3月7日～5月7日)	「大津留丹治書状 住吉良運商社文書28」など：5件5点

表6 オリジナルミュージアムグッズの作成と販売

絵葉書(「南蛮屏風(左隻)」「南蛮屏風(右隻)」「聖フランシスコ・ザビエル像」いずれも当館蔵)※規格を変更して再販	数量 2400枚(800枚×3種類)	納品 8月11日(8月12日より販売開始)	販売数 南蛮屏風(左隻)22枚、南蛮屏風(右隻)24枚、聖フランシスコ・ザビエル像120枚
絵葉書「手彫り薩摩切子青緑色被せガラス蓋物」(当館蔵)※完売による再販	数量 1200枚	納品 1月21日(2月1日より販売開始)	販売数 4枚
測量野帳 銅鐸(「桜ヶ丘銅鐸・銅戈群」当館蔵)	数量 300個	納品 1月6日(2月1日より販売開始)	販売数 85個
測量野帳 五色塚古墳(「五色塚古墳・小壺古墳(復元模型)」当館蔵)	数量 500個	納品 2月7日(3月1日より販売開始)	販売数 21個
ガラスピンズ(「聖フランシスコ・ザビエル像」「手彫り薩摩切子青緑色被せガラス蓋物」「切子赤被せ鯛形ガラス皿」「色絵阿蘭陀小皿」「伊万里焼円形日本図大皿(青海波文)」「太平洋図 A.オルテリウス」「坤輿全図」「複弁蓮華文軒丸瓦」いずれも当館蔵)	数量 1000個(各種100個～200個)	納品 3月17日	(4月1日より販売開始)

表7 一般向け普及事業

「浮世絵の摺師に挑戦！」 定員 8 名、申込者 116 名、参加者 7 名		
月 日	タイトル	講 師
6 月 19 日 (日)	浮世絵の摺師に挑戦！	指導主事

アンケート結果 (6 名分回収の内)

内容:「よかった」…7 名 (100%)

対応:「よかった」「まあよかった」…7 名 (100%)

時間:「ちょうどよい」…6 名 (約 86%)

ミュージアム講座 (第 27 回) 定員 80 名、申込 88 名、参加者のべ 206 名			
月 日	タイトル	講 師	参加者
10 月 20 日(木)	南蛮美術事始 ～新村出・永見徳太郎・池長孟～	塚原 晃	75 名
11 月 17 日(木)	川崎正蔵の円山応挙蒐集	山田 麻里亜	69 名
12 月 15 日(木)	神戸の城郭探求～最新調査事例から～	萱原 朋奈	62 名

アンケート結果 (58 名分回収の内)

スタッフの対応:「良い」「まあ良い」…51 名 (約 88%)

内容:「わかりやすい」「まあわかりやすい」…46 名 (約 79%)

時間:「ちょうどよい」…54 名 (約 93%)

量:「ちょうどよい」…55 名 (約 95%)

「学芸員と神戸を巡る (事前学習と現地見学)」 定員 15 名、申込 58 名、参加者 15 名、		
月 日	タイトル	講 師
10 月 23 日 (日)・30 日 (日)	雑居地 北野 -なりたちといま-	小林 さやか

アンケート結果 (15 名分回収の内)

内容:「よかった」「まあよかった」…15 名 (100%)

説明:「よかった」「まあよかった」…14 名 (約 93%)

スタッフの説明や対応:「よかった」「まあよかった」…15 名 (100%)

時間:「ちょうどよい」…12 名 (80%)

「博物館を楽しむ」 定員 10 名、申込者 11 名、参加者 9 名		
月 日	タイトル	講 師
6 月 16 日 (木)	油彩画をひらくー絵画の“絵”じゃないところー	高橋 佳苗
6 月 23 日 (木)	円筒埴輪に残された埴輪工人の痕跡をみる	阿部 功
6 月 30 日 (木)	古地図からみる江戸時代の旅	鈴木 更紗

アンケート結果 (9 名分回収の内)

説明:「わかりやすい」「まあわかりやすい」…9 名 (100%)

量:「ちょうどよい」…6 名 (約 67%)

「ギャラリートーク」 各回定員 5～10 名 14 回開催 参加者のべ 92 名			
月 日	時 間	実施回数	参加者
6 月 11 日～7 月 2 日	毎週土曜日 14 時～14 時 15 分	計 4 回	のべ 24 名
1 月 21 日～3 月 11 日	毎週土曜 11 時～11 時 20 分	計 10 回	のべ 68 名
2 月 4 日・3 月 4 日	13 時～13 時 20 分		

アンケート結果 (92 名分回収の内)

内容:「とても満足」「満足」…85 名 (約 92%)

時間:「ちょうどよい」…89 名 (約 97%)

【障がい者のための鑑賞会】全 1 回、参加 34 名

【未就学児と保護者のための鑑賞会】全 1 回、参加 16 名

・8 月 1 日 (月) ※「スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち

アンケート結果 (8 名分回収の内)

内容:「とても満足した」「満足した」…8 名 (100%)、

時間:「ちょうどよい」…8 名 (100%)

表8 令和4年度 博物館実習

実習課題：鑑賞ガイドづくり

【第2班】8月30日(火)～9月3日(土) 担当：三好

第1班	曜日	9:25	9:30～10:00 (30分)	(10分)	10:10～11:10 (60分)	(10分)	11:20～12:50 (90分)	12:50～13:50 (60分)	13:50～15:20 (90分)	(10分)	15:30～17:10 (100分)	(20分)			
1	8/30	火	朝礼 (講堂) [三好]	ガイダンス (講堂) [三好]	休憩	講義① 常設展について (講堂) [三好]	休憩	館内見学/ワークシート作成 (各展示室・館内設備・バックヤード) A班 [三好] B班 [高橋]	昼食 (大会議室)	講義② 展覧会ができるまで(巡回展・自主企画展) (講堂) [中山]	休憩	実習課題① 課題説明/企画作成/館内自主見学/学芸員による内容の聞き取り (大会議室・各展示室等) [三好]	実習日誌/連絡 (大会議室) [三好]		
2	8/31	水	朝礼 (講堂) [三好]	講義③ 普及活動/学習支援交流員 (講堂) [永山]	休憩	資料の取り扱い 軸装・屏風 (講堂前・考古学習室前廊下) [川野・中山・山田]	休憩	資料の取り扱い 額装 (写真室) [塚原・高橋・鈴木]	昼食 (大会議室)	実習課題② 企画/内容作成 (大会議室) [三好]	休憩	学校連携 (大会議室) [佐藤・磯村・小林]	実習日誌/連絡 (大会議室) [三好]		
3	9/1	木	朝礼 (大会議室) [三好]	実習課題③ 内容作成/中間発表準備 (大会議室) [三好]	休憩	実習課題④ 中間発表 (大会議室・小会議室) [三好]	休憩	実習課題⑤ 課題の見直し・修正 (大会議室) [高橋]	昼食 (大会議室)	講義④ 広報活動 (講堂) [高橋]	休憩	資料の取り扱い 歴史 (写真室) [川野・三好・水嶋]	休憩	資料の取り扱い 考古 (講堂前) [小林・阿部・萱原]	実習日誌/連絡 (大会議室) [三好]
4	9/2	金	朝礼 (講堂) [三好]	講義④ 資料保存/震災 (講堂) [塚原]	休憩	実習課題⑥ 課題の見直し・修正 (大会議室) [三好]	昼食 (大会議室)	実習課題⑦ 本発表準備 (大会議室・その他展示室等の自主見学あり) [三好]					実習日誌/連絡 (大会議室) [三好]		
5	9/3	土	朝礼 (講堂) [三好]	実習課題⑧ 課題成果見学 (コレクション展示室他) [三好]	休憩	実習課題⑨ 課題発表 (講堂) [三好]	昼食 (大会議室)	実習課題⑩ 課題発表 (講堂) [三好]	休憩	14:20～14:50(30分) 実習課題⑪ 課題全体講評 (講堂) [三好・高橋]	14:50～15:50 (60分) 実習全体まとめ (講堂) [三好・高橋]	休憩	実習日誌/振り返り (大会議室) [三好・高橋]	挨拶/連絡 (大会議室) [三好]	